

一般社団法人

建設コンサルタンツ協会 東北支部

JCCA TOHOKU

明日への風、
東北から



vol. **71**
支部だより 2025.10

目 次

Vol.71

・ 巻頭言			
新任挨拶	(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部 支部長	田澤 光治	1
・ 特集1 東北インフラツーリズム (橋梁編)			
【青森県】望郷大橋におけるインフラツーリズムの取り組みについて	三戸町長	沼澤 修二	2
【岩手県】「めがね橋」から続く遠野型インフラツーリズム	(一社)遠野市観光協会	堀内 朋子	4
【秋田県】歴史を紡ぐ橋梁とインフラツーリズムの魅力発信について	秋田県建設部建設政策課 企画・建設産業振興チーム チームリーダー	目黒 寛	6
【宮城県】東日本大震災からの復興の象徴「中橋」	宮城県 南三陸町 建設課	遠藤 和美	8
【山形県】山形県が管理する橋のインフラツーリズムについて	山形県 県土整備部 道路整備課	佐藤 遼	10
【福島県】三島町インフラツーリズムによる地域活性化の取り組み	NPO まちづくりみしま 観光協会理事	佐久間宗一	12
・ 海外紀行			
キルギス共和国滞在記	(株)片平新日本技研	堀川 長洋	14
・ 私の趣味			
野球と私「なぜ私の月曜は、いつも満身創痍なのか」	八千代エンジニアリング(株)	戸田 和総	16
・ 特集2 インフラDX 奨励賞			
補修設計におけるDXへの取り組み事例について	(株)復建技術コンサルタント	鈴木 勝浩	17
点検支援技術の検証により選定した4技術による気仙沼湾横断橋の点検	復建技術・大日本コンサルタント設計共同体 (株)復建技術コンサルタント	小松 昭彦	18
令和6年度「みちのくインフラDX 奨励賞」を受賞して	新和設計・庄内測量設計舎設計共同体 新和設計(株)	安達 和也	20
相双地区交通拠点調査検討業務におけるAI画像解析による省人化の取組	(株)建設技術研究所	佐野 薫	22
・ 技術シリーズ 若手技術者の声			
2年間の振り返り	大日本ダイヤコンサルタント(株)	西保 亘	23
・ 技術士合格体験記			
	(株)建設技術研究所	石崎 諒	24
	三井共同建設コンサルタント(株)	梅原有理子	25
・ セミナー／発表会報告			
令和7年度 ICT 専門委員会「技術講習会」	技術部会 ICT 専門委員会 (株)復建技術コンサルタント	市川 健	26
第23回 (令和6年度) 高校生「橋梁模型」作品発表会の開催報告	総務部会長 (株)長大	長南 憲一	27
令和7年度 建コン東北支部交流会	総務部会 (株)長大	安倍 忠和	29
令和7年度 建コン東北支部交流会に参加して	(株)長大	松田智華子	31
・ 話題			
建設技術公開 EE 東北'25について	(株)ダイエツ	樋口 章大	32
令和7年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務表彰について			36
・ 新規会員の紹介			
	(株)都市開発設計 代表取締役	野口 隆夫	40
「安全で安心できる社会基盤を目指して」	(株)マドック 代表取締役	平澤 紀元	42
・ 支部活動報告			
令和7年度支部定時総会			44
みやぎ元気まつり2025			45
・ 支部だより			47
・ 令和7年度 講演会のお知らせ			51
・ 東北支部 会員名簿			52
・ 編集後記	広報委員	畑山 満	54



新 任 挨 拶

(一社)建設コンサルタント協会東北支部 支部長 田 澤 光 治

平素より、一般社団法人建設コンサルタント協会東北支部の活動に対し、格別のご理解とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、令和7年4月22日に開催されました定時総会におきまして、菅原稔郎前支部長の後任として支部長を拝命いたしました田澤光治でございます。微力ではございますが、地域社会の発展と業界のさらなる成長に向けて全力を尽くしてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

建設コンサルタントは、社会インフラの整備や維持管理を通じて、地域社会の発展に欠かせない役割を担っています。特に東北地方においては、少子高齢化や若者の流出、自治体職員の減少といった課題が顕著であり、私たちの使命はますます重要性を増しています。これらの課題に誠実に向き合い、地域社会に根ざした持続可能な発展を目指して、以下の項目に重点的に取り組んでまいります。

1. 防災・減災への対応力の強化

近年、気候変動の影響による豪雨や大雪などの気象災害が激甚化・頻発化しており、災害対応力の強化が喫緊の課題となっています。東北支部では、国や県等との災害協定に基づく支援要請に迅速に対応するため、地域を越えた技術・知見の提供体制を構築し、災害復旧・復興における迅速かつ的確な対応に努めてまいります。また、首都直下地震や南海トラフ巨大地震などの大規模災害への備えを強化するため、東日本大震災で蓄積したノウハウを全国に発信してまいります。

2. 地域社会への貢献と連携の強化

東北地方は全国でも人口減少が顕著であり、自治体

職員の減少も相まって、建設コンサルタントに求められる役割が多様化しています。調査、計画、設計、維持管理、運営までを包括的に担う体制を整え、自治体や地域社会との連携を強化してまいります。さらに、オープンイノベーションの形でさまざまな企業や団体と連携し、持続可能な社会構築に業界全体で挑んでまいります。

3. 担い手の確保・育成の強化と業界の魅力発信

技術者不足や若手技術者の減少により、技術の継承が困難となり技術の空洞化など、将来のインフラ整備や維持管理に重大な懸念が生じています。この課題に対応するためには、若手技術者の育成や技術力の向上に向けた取り組みを強化するとともに、業界の魅力を広く発信し、次世代を担う人材を確保することが急務です。

発注者との意見交換会を通じて、受発注者間の相互理解を深め、技術力を重視した選定方法の拡充や納期の平準化など、業界の健全な発展に向けた取り組みを進めてまいります。また、今年度初めて開催する「若手技術者発表会」などを通して、若手技術者の技術力向上と技術交流を図ってまいります。さらに、「若手の会」の活動を積極的に支援し、SNSや学校訪問を通じて業界の魅力を広く発信してまいります。

建設コンサルタントは「社会の未来をつくる重要な役割」を担う存在です。地域社会にとって身近なプロフェッショナルとして認識されるよう、会員企業の皆様と力を合わせ、業界の魅力を高めていきたいと考えております。

結びに、会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新任のご挨拶とさせていただきます。



【青森県】 望郷大橋におけるインフラツーリズムの取り組みについて

三戸町長 沼澤 修二

はじめに

青森県三戸郡^{さんのへまち}三戸町は、豊かな自然と歴史をあわせ持つ町です。古くから南部藩の拠点として栄え、現在は農業を中心にしたのどかな暮らしが営まれています。そんな三戸町に、もう一つのシンボルともいえる美しい橋があります。それが「三戸^{さんのへぼうきょうおおはし}望郷大橋」です。



本稿では、三戸町の基本情報を紹介したうえで、同町を代表する土木構造物である三戸望郷大橋の特徴や魅力をご紹介します。最後には、実際に三戸町を訪れてもらうための呼びかけを添えました。地域の魅力を再確認する一助となれば幸いです。

三戸町の紹介

三戸町は、青森県の最南端に位置する町です。八戸市からは車で約1時間、盛岡市からも比較的アクセスしやすい場所にあります。町の東側には馬淵川が流れ、西側には^{まべちがわ}名久井岳がそびえ、周囲を山と川に囲まれた自然豊かな地形が特徴です。2024年時点の人口はおよそ9,000人前後とされ、県内では比較的小規模な町に分類されます。町の中心部には古くからの商店街や住宅地が広がり、その外縁部にはリンゴ畑や畜産地帯が点在しています。南部せんべいや地酒、地域資源を生かした特産品も多くあります。その他にも、国史跡三戸城跡城山公園や佐藤家建造物群など歴史的建造物もあります。



三戸望郷大橋の紹介

三戸望郷大橋は、三戸町の梅内地区に架かる巨大な橋です。2005年（平成17年）に完成し、三戸地区広域営農団地農道整備事業の一環として建設されました。その構造と規模は全国的にも非常に珍しく、高度な土木技術が用いられています。



橋の形式は「3径間連続PCエクストラードーズド橋」。プレストレストコンクリートを使った構造で、エクストラードーズド橋とは、主塔とケーブルを組み合わせたハイブリッド型の橋です。中央径間が200メートルあり、この長さは同形式の橋として建築当時は世界最大級にあたりました。全長は400メートル、幅は最大で13.45メートル。主塔の高さは約25メートルです。



この橋の最大の特徴は、その構造美です。白く伸びた主塔から放射状に張られたケーブルは、見る角度によってさまざまな表情を見せます。春は橋の向こうにリンゴの花が咲き、夏は濃い緑が橋の周囲を彩ります。秋には紅葉が背景となり、冬は雪化粧が橋全体を包み込みます。まさに「四季折々の絶景」が楽しめる橋です。



三戸望郷大橋は、「第17回ふるさとあおり景観賞」（土木施設部門）で最優秀賞を受賞しており、技術だけでなく景観に配慮した設計が高く評価されています。橋の歩道からは馬淵川を一望でき、訪れる人の多くが記念撮影をしています。また、橋のたもとには休憩用の小さなスペースがあり、ドライブやツーリングの途中に立ち寄るスポットとしても人気です。地域住民にとっては日常の通勤・通学路でありながら、訪問者にとっては非日常の風景が広がる場所として、静かな注目を集めています。



さいごに

三戸町は、自然と歴史、そして技術が融合した町です。リンゴ畑が広がる風景の中に、かつての城下町の風情が残り、そこに近代的な橋梁が加わることで、独自の地域風景を生み出しています。三戸望郷大橋は、地域の産業を支え、人々の暮らしをつなぎ、訪れる人に感動を与える「地域の誇り」です。写真を撮る人、ドライブで訪れる人、歴史にふれる人、それぞれにとって意味のある体験が待っています。ぜひ一度、三戸町へ足を運んでみてください。馬淵川の清流と橋の造形美、そして人々の温かさがきっとあなたを迎えてくれることでしょう。ゆっくりと歩きながら、橋の上から町を眺めてみてください。そこには、都市にはない美しさを感じられるはずです。三戸町は、いつでもあなたの訪問をお待ちしています。



【岩手県】 「めがね橋」から続く遠野型インフラツーリズム

（一社）遠野市観光協会 堀内 朋子

岩手県遠野市は北上高地の中南部に位置し、標高1,917mの早池峰山を最高峰に、標高1,000m前後の山々と標高700m程度の高原群が周囲を取り囲んでいます。大昔には湖の底であったという伝説が残り、藩政時代には遠野南部氏の城下町として栄え、内陸と沿岸を結ぶ宿場町として賑わいました。

明治43年に柳田國男が著した『遠野物語』は、遠野市土淵町出身の佐々木喜善から聞いた遠野地方に伝わる伝承や説話をまとめ発刊されましたが、市内には「カッパ」や「ザシキワラシ」など、その話にまつわる場所が今でも残されていますが、「見えないなにか」「異界」を感じる空間でもあります。



※達曽部川橋梁（岩根橋）

遠野市の西の玄関口に位置する宮守町には、平成14年土木学会選奨土木遺産、平成20年度経済産業省近代化産業遺産の認定を受けた「達曽部川橋梁（通称：岩根橋）」と「宮守川橋梁（通称：めがね橋）」の遠野を代表する2つの橋が架けられています。どちらも鉄筋コンクリート充腹アーチ橋で、「達曽部川橋梁（通称：岩根橋）」は、JR釜石線岩根橋駅から約1km釜石寄りにあり、国道283号線と並行して架かっている昭和18年に改修（橋長98.5m）した6連アーチ橋です。

宮沢賢治の童話『銀河鉄道の夜』は、実はこの「岩根橋」がモチーフにされたともいわれています。「賢治が岩根橋の下に寝ころんでよく空を見上げていた」という逸話もあるとか。



※宮守川橋梁（めがね橋）

もう一つの橋「宮守川橋梁（通称：めがね橋）」は岩根橋から約4km釜石寄りにあり、国道283号線を通る車はそのアーチの下をくぐり抜けます。昭和18年に完成（橋長107.3m）した5連アーチ橋で、橋に並んで岩手軽便鉄道時代の鋼板桁橋の橋脚の一部である石造橋脚が残っています。



※ライトアップされためがね橋

地元商工会青年部が中心となって始めたライトアップは、現在は通年型に移行し（日没から午後10時まで）その情景は宮沢賢治の童話『銀河鉄道の夜』を彷彿とさせ、訪れる人を楽しませていますが、令和2年に（一社）夜景観光コンベンション・ビューローから日本夜景遺産（ライトアップ夜景遺産）の認定を受けました。幻想的な風景はきっと思い出に残るものとなるでしょう。

プロポーズにふさわしい場所として、平成21年にはNPO法人地域活性化支援センターから「恋人の聖地」としても選定されています。



※恋人の聖地モニュメント

遠野市には、先人から受け継いできた豊かな自然や伝統的な文化などを地域で守り伝える「遠野遺産」認定制度があり、「めがね橋周辺の景観」が遠野遺産第99号に認定されています。多くの観光客が訪れる遠野市のシンボルとして親しまれているこの景観は地域の人達によって守られています。

めがね橋のすぐそばには「道の駅みやもり」があり、道の駅を基点としたエリア別の観光ルートパネルで分かりやすく紹介しています。産直では、特産品の「わさび」をはじめとした地元ならではの農産物や加工品などが豊富に取り揃えられ、わさび団子やわさびソフトなどもおすすめです。お腹を満たしながら旅の計画を立てるのも良いですね。

めがね橋から北側（国道396号線方面）へ約5km進むと、令和3年度に農林水産省「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」に認定された「宮守の棚田（正式名称 旧宮守棚田）」が広がり、どこか懐かしく、ホッとする日本の原風景を感じることができます。



この四季折々の絶景を楽しみながらマウンテンバイクで巡るサイクリングツアーを企画しているのが、「遠野旅の産地直売所」です。風の匂いや、車では見過ごしてしまいそうな風景など、自転車だからこそ感じられる贅沢な空間を是非お楽しみいただきたいと思っています。この他にも目的別に色々な体験メニューをご用意しております。くわしくは「遠野旅の産地直売所」ホームページをご覧ください。

こちらのサイクリングツアーの集合場所にもなっている「サンQふる郷市場」は農事法人宮守川上流生産組合直営の産直ですが、地域が一丸となり「一集落一農場」に取り組んでおり、農産物の加工品や人気のどぶろくなどが販売されています。

遠野市は全国に先駆けどぶろく特区第1号に認定された場所でもあります。遠野の冬の風物詩「遠野どべっこ祭り」は遠野ふるさと村で開催されます。

「永遠の日本のふるさと遠野」で皆様のお越しをお待ち申し上げております。



※サンQふる郷市場

【秋田県】歴史を紡ぐ橋梁とインフラツーリズムの魅力発信について

秋田県建設部建設政策課 企画・建設産業振興チーム
チームリーダー 目黒 寛

秋田県は、豊かな自然に恵まれ、その厳しさと美しさの中で、人々が知恵を絞り共生してきた歴史があります。

本県では、「未来へ伝えたい秋田のインフラ50選」として多様なインフラ資産を選定しており、これらは単なる機能的な構造物にとどまらず、地域の歴史、文化、そして生活を支える重要な要素であり、訪れる人々に感動と発見を提供しています。

特に、多種多様な橋梁は、その優れたデザインや技術、地域との深い結びつきから、インフラツーリズムの重要な柱となっています。

本稿では、県内に点在する、訪れる人々に感動と発見を提供する魅力的な橋梁をいくつかご紹介します。

1 しょうようおおはし 翔鷹大橋

北秋田市に位置する翔鷹大橋は、「今泉跨線橋」「今泉高架橋」「蟹沢大橋」という3つの橋梁の総称です。

「蟹沢大橋」には斜張橋と桁橋の間を補うエクストラード形式が採用されており、そのシンボリックで景観に優れたデザインが、地域の人々だけでなく観光客にも親しまれています。



翔鷹大橋

2 ぼうちゅうはし 坊中橋

藤里町にある坊中橋は、国内初の鋼床版と集成材の合成桁構造を採用したハイブリッド型の木橋です。

橋梁の部材には藤里町産の秋田スギが使用されてお

り、世界自然遺産の白神山地や太良峡への玄関口に位置することから、白神の山々をイメージしたトラス橋となりました。

この橋は、循環可能な資源である木材の活用を通じて、人と自然にやさしく、周囲の景観と調和する優れたインフラとして、地域の魅力を伝えています。



坊中橋

3 かみ いわはし 神の岩橋

仙北市の神の岩橋は、新緑と紅葉の名所として県内外から多くの観光客が訪れる「抱返り溪谷」の入口にあり、県内最古の吊り橋として知られています。

自然の中に佇む朱色がシンボリックな吊り橋は、その歴史的価値とともに、周辺の豊かな原生林や溪流が織りなす絶景を楽しめるスポットです。

この橋は、火山の恵みと城下町の文化が共存する仙北エリアの象徴の一つであり、訪れる人々に過去への旅と壮大な自然の美しさを同時に提供します。



神の岩橋

4 田子内橋

県南部・雄勝郡東成瀬村の国道342号に架かる田子内橋は、昭和10年に完成しました。

橋脚がなく弓なりにになった形が特徴で、川の兩岸を緩やかなアーチ曲線で結ぶコンクリートアーチ橋です。

当時としては最新の技術を駆使し、ドイツの新しい理論を応用して造られており、現代的なだけでなく、エキゾチックで芸術性の高い、そして応力性にも優れた名インフラとして存在感を放っています。



田子内橋

5 宇宙大橋

平成6年11月に完成した宇宙大橋は全長180m、高さ27.7m、幅10.25mのバスケットハンドル型ニールセンローゼアーチ橋であり、この形式は秋田県で唯一となっています。

当初は「羽場」と「中ノ台」の2つの集落を結ぶため「羽中大橋」と命名される予定でしたが、同年7月に日本人初の女性宇宙飛行士である向井千秋氏が宇宙実験で大きな功績を残したことに子どもたちが感動し、「羽中」を「宇宙」にとの声が上がったことから「宇宙大橋」と命名されました。

記念碑には向井千秋氏直筆の題字が刻まれ、宇宙服姿の写真も飾られています。



宇宙大橋

本県の橋梁は、それぞれの地域に根ざした独自の物語と技術を有しており、単なる構造物以上の魅力を放っています。

今回紹介した橋梁を含む「未来へ伝えたい秋田のインフラ50選」は秋田県公式ウェブサイト「美の国あきたネット」※1に掲載しており、インフラ50選所在地マップ（Googleマップ）や紹介動画（YouTube）等も併せて掲載しています。

また県内各地の代表的なインフラ資産を観光資源として紹介するインフラツーリズムガイドブック「秋田才発見」を作成しており、県内のエリア毎にインフラ資産や名産品、観光スポット等を紹介しているほか、旅行者向けのモデルコースを提案しています。こちらでもウェブサイト上で公開しておりますのでぜひ一度ご覧ください。

この機会に、秋田の橋梁やインフラを巡り、その魅力を五感で体験していただければ幸いです。



インフラツーリズムガイドブック「秋田才発見」
エリア毎にインフラ資産等を紹介しています

※1

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/69542>



【宮城県】 東日本大震災からの復興の象徴「中橋」

宮城県 南三陸町 建設課 遠藤 和美

1. はじめに

「中橋」は、東日本大震災の復興事業により、南三陸町志津川地区に流れる2級河川八幡川に架けられた人道橋で、延長80.6m、上部工は単純鋼パイプトラス橋で、床版には木材を使用し、震災以前の形状である太鼓橋を想起させるデザインで、川を駆け抜ける風を感じられる心地よい橋となっています。

2. 東日本大震災

南三陸町は、宮城県の北東部に位置し、リアス式海岸の豊かな景観を有する三陸復興国立公園の一角を形成しています。ラムサール条約登録湿地である志津川湾においては、カキやワカメ、ギンザケなどの養殖が盛んで、水産業を基幹産業としつつ、豊かな自然を活用した農林業や観光業にも力を入れています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災においては、高さ10mを超える津波に襲われ、大きな被害を受けました。その後、町では新たな市街地を整備すべく、「復興計画」に基づき被災した土地を高台移転で発生する土を利用して嵩上げし、津波からの安全性を高める事業に取り組みました。この復興の過程の中で、住民からは新しくなる街に対してかつての市街地を懐かしむ声も多く、新たに立ち上がった「まちづくり協議会」の中で、町民に親しまれていた「中橋」の復活を望む意見が出されました。これを受けて、町では「新たな街のシンボル」となるよう、「中橋」再建の検討を進めました。

3. デザイン・設計

震災後、市街地を流れる八幡川の左岸地区においては「なりわいの場」として新たな商店街、右岸地区には追悼・鎮魂の場として震災復興祈念公園の整備が予定され、「中橋」はこれらの拠点を結ぶいわば「創造」と「想像」をつなぐ架け橋として計画されました。

デザイン・設計は、世界で活躍する建築家、隈研吾氏が担い、町の歴史や文化、地域の声を取り込みつつ、風景に溶け込むような軽やかなデザインとなっています。

また、隈氏の協力を得て町が策定した「グランドデザイン」に基づき、人々の回遊性を高めるため車道橋ではなく人道橋として整備したことから、観光イベントなどにも活用されています。中橋は震災以前から多くの町民に愛され、灯籠流しやかがり火祭りなど地域行事の大切な場となっていました。中橋の復旧は新たな住民の心の拠り所となることも期待されています。



【灯籠流しで賑わった旧中橋：震災前】

橋の構造は、太鼓橋のイメージを復元させるため鋼パイプトラスを採用しており、その溶接作業は職人の手により仕上げられ、周囲の景観に馴染むデザインを実現しています。また、もともと木造橋の「中橋」であったことから、整備にあたってはウッドデッキやウッドゲート（床盤・支柱）に地元杉材（FSC認証材）が多く採用されています。当町は古くから良質な杉の産地であり、仙台北下で大橋を架ける際にも南三陸の杉材が使われるほどでした。また、使用した杉材

は、津波被害からの復興事業として実施した住宅高台移転に係る造成工事で伐採した杉を使用しており、デザインも含めて「復興の象徴」となっています。



【完成した中橋】

4. 震災復興祈念公園

「中橋」が新たな市街地とを結ぶその先には、震災遺構である「防災対策庁舎」を含む震災復興祈念公園があります。この公園は、今回の東日本大震災及びこれまで自然災害で犠牲となられた犠牲者を悼み（追悼）、震災の記憶と教訓を次世代に受け継ぎ（継承）、復興した町の未来を人々と共に思い描き（想像）、その場を協働によって創り続ける公園として整備されました。

海抜20mの築山の頂上部「祈りの丘」には東日本大震災で犠牲になられた方々の名簿を安置する石碑が設置され、同じく海抜16.5m（今回の平均津波高さ）には当時の津波平均高さが分かるよう「高さのみち」があり、津波高さを体感できるようになっています。また、同築山を登る園路には地震発生時からの出来事を時間の経過に沿ってプレートに打刻したものが埋め込まれている「記憶のみち」もあり、当時の状況を知ることができます。

町民のみならず、訪れた方がこの災害を忘れることなく、今後の防災に役立てるため、そして将来に記憶を「つなげる」場となっています。



【震災復興祈念公園：写真左側が防災対策庁舎】

5. おわりに

現在も多くの方に訪れていただいている「中橋」ですが、令和2年度にはその技術の高さや設計・施工が橋梁として優秀な業績と認められ、公益社団法人土木学会より「田中賞」（作品部門）を受賞しました。「中橋」は、新たな街の顔である「道の駅さんさん南三陸」と、震災遺構である「防災対策庁舎」を含む鎮魂・慰霊の場「震災復興祈念公園」をつなぐ橋として、更には復興とその道のりを後世に伝える場、「つないでいく場」として、これからも地域に寄り添い続けます。



【両岸をつなぐ「中橋」】



【「防災対策庁舎」と「中橋」全景写真】

【山形県】山形県が管理する橋のインフラツーリズムについて

山形県 県土整備部 道路整備課 佐藤 遼

はじめに

インフラツーリズム（橋梁編）がテーマということで、山形県管理の橋梁の中から、ぜひ訪れていただきたい橋をピックアップしてみました。

ひじおりのぞみおおはし

肘折希望大橋（大蔵村）

肘折希望大橋は、地すべり崩壊した山腹の道路を復旧するため、高低差14m、水平距離20mの2地点をつないだ鋼製ラーメン栈道橋です。縦断勾配を確保するため、橋長が240.5mのS字形状となっており、日本で一番長い鋼製ラーメン栈道橋となっております。



上から撮影した肘折希望大橋



雪の中の肘折希望大橋

肘折希望大橋の付近には、開湯約1,200年の歴史を誇る肘折温泉郷があります。湯治場としての歴史を持ち、木造の古い旅館が残っているため、昔ながらの湯治場の雰囲気は今も残す温泉街となっております。

がびきょう

蛾眉橋（三川町、鶴岡市）

蛾眉橋は、三川町と鶴岡市を結ぶ一級河川赤川に架かる橋長308mの曲弦ポニーワーレントラス橋です。ポニートラス橋は、トラス橋の先駆けとして明治期に多く導入されました。蛾眉橋は昭和14年竣工の古い橋ですが、現存するポニートラス橋としては最も新しい部類ではないかと思います。余談ですが、本県のような豪雪地帯では、下路トラス橋の上横構からの落雪が問題となりますが、蛾眉橋ではその心配がありません。



起点側から撮影した蛾眉橋

なかつがわばし

中津川橋（飯豊町）

中津川橋は、白川ダムの白川湖に架かる橋長234.8mのニールセンローゼ橋であり、本県が管理する橋梁では唯一の橋梁形式です。近年は白川湖の水没林が人気スポットとなっております。きれいなキャンプ場も隣接しておりますので、大満足のインフラツーリズムになるかと思います。



白川湖と中津川橋



白川湖の水没林

りゅうおうばし
龍王橋（上山市）

龍王橋は、一級河川須川に架かる橋長72.5mのRCアーチ橋です。昭和10年竣工で90年が経過していますが、橋梁補修や耐震補強を実施して今なお現役です。当時としては壮大な構造物であったため、写真が絵葉書に使われたとの記録が残っています。



龍王橋

当時、東北地方でRCアーチ橋が多く架けられた時期だったようですが、本県では龍王橋以外にも多くのRCアーチ橋が現存しておりますので、ぜひ足を運んで見て頂ければと思います。

終わりに

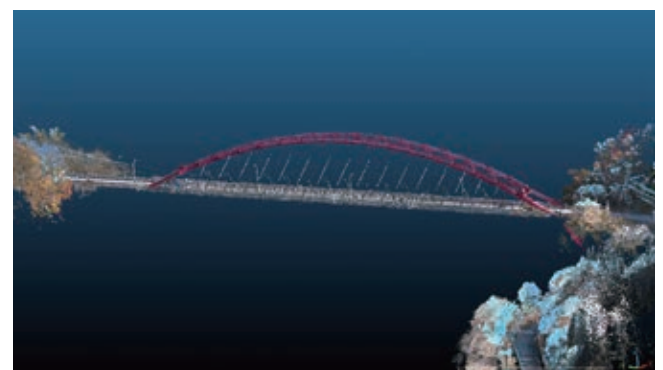
ごく一部ですが、本県が管理する橋梁の一部を紹介しました。この機会を通して思うのは、たしかに経済性を優先した合理的な設計が最優先ではありますが、周囲の環境・風景との調和や利用者から愛着を持っていただく設計も大切なのではないかと思います。

最後に、少しPRをさせていただきます。

本県では、県管理の道路全ての点群データを無料公開しています。打合せ時のちょっとした資料作成や概略設計のルート検討にも使えると思いますので、ぜひアクセスして利用してみてください。

G空間情報センター

<https://front.geospatial.jp/>



中津川橋の点群データ

【福島県】三島町インフラツーリズムによる地域活性化の取り組み

NPO まちづくりみしま 観光協会理事 佐久間 宗 一

1. 三島町について

三島町は福島県西部に位置し、只見川沿いに集落が点在する人口1300人の山間の町で「奥会津三島町」とも呼ばれています。

古くから「会津桐」の産地として知られ、「桐の里」三島町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。近年JR只見線が国内外から注目され、町内にある第一只見川橋梁ビューポイントからの眺めは特に人気が高く、四季を通じてインバウンド含め、多くの観光客が訪れています。また雪国ならではの民具作り（編み組細工）やサイノカミなどの民俗行事が現在も継承されており、人々が守り繋いできた文化を大切にする町づくりを展開しています。



2. JR只見線橋梁

・第一只見川橋梁

JR只見線が柳津町から三島町に入り、会津松原駅の先で最初に只見川を渡る「第一只見川橋梁」、国道252号線沿いにある道の駅「尾瀬街道みしま宿」そばにある「只見川橋梁ビューポイント」は絶景ポイントとなっています。ここから撮られた写真は世界最大規模の国際写真コンテスト「インターナショナル・フォトグラファー・アワード」の自然部門にて2022年最優秀賞（亀山武史氏撮影）に選ばれました。蛇行しながらゆっくりと流れる只見川に架かる橋梁は、兩岸の木々と正面の日向倉山など四季折々の変化を見せる美しい自然景観と調和しています。この橋梁は5月中旬に咲く桐の花の色、薄紫に塗られています。



・第二只見川橋梁

二番目の会津西方駅を過ぎるとすぐに只見川を渡る第二只見川橋梁は川霧スポットとして人気が高い橋梁です。余談ですが、只見線が会津宮下まで開通する以前には、人が只見川を渡る手段は舟渡か遠回りになる清水橋しかなく、第二橋梁を渡っていたとのこと。勿論昔も今も絶対に線路を歩いてはいけません。



・宮下アーチ3兄弟

第二只見川橋梁を過ぎると、会津宮下駅の手前に国道252号線の新宮下橋、県道宮下橋とJR只見線の大谷川橋梁、3つの橋が一緒に見られるビューポイントがあります。3つのアーチ型橋梁を一度に見られるスポットとして近年注目を集めている撮影スポットとなっています。



＊＊ 土木学会選奨土木遺産認定 ＊＊

JR只見線大谷川橋梁は、昭和14年完成、同16年に供用開始されたRCアーチ橋です。完成当時は日本で最長支間の鉄道RCアーチ橋で、「只見線鉄道施設群」の一つとして、令和3年に「土木学会選奨土木遺産」に認定されました。

3. 江戸時代の古街道を歩く沼田街道トレッキング

毎年11月初旬に開催されている沼田街道トレッキングは只見線を活用した地区住民主体の秋のイベントの一つで、毎年大勢の参加者が紅葉の中の古街道歩きを楽しんでいます。スタート地点のJR只見線滝谷駅から旧街道を歩き、途中にある滝谷風穴や狼煙台に寄り、巡検使の道を辿りながら丸山城址、第一只見川橋梁ビューポイント、また地域では珍しい金烏供養塔などを見ながらの、古の沼田街道を辿るトレッキングとなっています。帰路は終点の会津宮下駅から滝谷駅まで只見線に乗る、ほぼ一日の街道歩きとなっています。

近年地区住民有志で整備された新たなビューポイントの滝谷川橋梁は、昭和50年に発行のSL切手シリーズで紹介されました。



4. サイノカミ

小正月の1月15日に町の各地区で行われる冬の伝統行事サイノカミは国の重要無形民俗文化財に指定されています。実施方法や形は各地区さまざまですが、山から切り出したご神木にカヤや藁、豆柄などを巻き付け、田んぼや境内など広い場所に立て、古いお札などと一緒に燃やします。夜空を焦がすような勇壮な火柱が上がり、その年の五穀豊穡、家内安全、無病息災、合格祈願などを祈ります。このサイノカミは2月中旬ごろに開催予定のイベント「雪と火のまつり」でも再現されます。



5. 編み組細工

豪雪地帯の三島町では畑や山仕事ができない冬は雪かきの合間に縄ないや日常使う雪靴や箆などの編み組仕事をしながら長い冬を過ごします。囲炉裏端で編む姿を子や孫が見ながら覚えて今もその技は継承されて

います。国の伝統的工芸品に認定されている三島町の編み組細工は自然の素材を使った工芸品として人気が高く、毎年開催される「ふるさと会津工人まつり」には約2万人が訪れます。



6. 桐の里ウォーク

薄紫色の桐の花が咲く5月中旬ごろに開催される三島町恒例のイベントで、毎回300名近い参加者が訪れます。三島大橋や歳時記橋など只見川に架かる橋を渡りながら町内をめぐる約8kmのウォーキングです。三島町の特産品があたる抽選会や途中には地区のおもてなしもあります。



7. 駅からサイクリング

只見線を利用する観光客向けに、第二の交通手段として電動アシスト付きレンタサイクルの貸し出しを行っています。隣の柳津町とは相互乗り捨ても可能で町内探索や只見線橋梁巡りなど利用客が増えています。詳しくは三島町観光協会のポータルサイトをご覧ください。



<https://www.town.mishima.fukushima.jp/site/kankou/>

キルギス共和国滞在記

株式会社片平新日本技研 堀 川 長 洋

1. はじめに

株式会社片平新日本技研は、2017年に片平エンジニアリングと新日本技研の合併により生まれた会社です。株式会社片平エンジニアリング・インターナショナル（以下、KEI）は、片平エンジニアリングの海外事業部門が独立する形で1987年に運輸交通部門の海外専門コンサルタントとして設立され、今日に至っています。

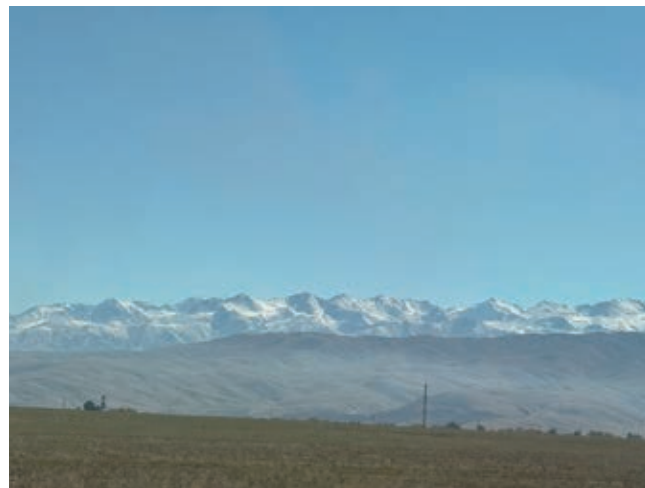
今回は、KEIより協力要請があり、橋梁架け替え計画準備調査団の一員として2024年10月～11月の約1ヶ月滞在したキルギス共和国について紹介します。

2. キルギス共和国

キルギス共和国は、中央アジアにおけるシルクロードの交易路で、『西遊記』で有名な三蔵法師（玄奘三蔵）が越えたといわれている天山山脈がある自然豊かな内陸国です。緯度は、北海道とほぼ同じで、カザフスタン・中華人民共和国・タジキスタン・ウズベキスタンと隣接しています。

公用語はロシア語、国家語としてキルギス語が使われています。

国土の約4割が標高3,000mを超える山岳地帯で、北東部には透明度の高さ（世界2位の透明度と言われている）から『中央アジアの真珠』と呼ばれている『イシク・クル湖』があります。広さは琵琶湖の約9倍あり、厳しい冬でも凍ることがない湖で、貴重な観光資源となっています。



日本との時差は－3時間ですが、直行便がないため、アルマティ（カザフスタン）・イスタンブール（トルコ）を経由する必要があります。

キルギスでは『ソム（som）【1ソム＝約1.82円（2025年1月時点）】』が公式通貨として使用されており、1993年のソビエト連邦からの独立を果たした後に導入されています。

キルギスでは、『かつて日本人とキルギス人は兄弟で、魚好きが日本へ、肉好きがキルギスへ来た』という逸話もあるほど、日本人と顔や体つきが大変似ています。



3. キルギス共和国での生活

滞在していた近所には、スーパーマーケットや八百屋があり、比較的なんでも揃う感じでした。



キルギス料理は接触のある文化から少しずつ吸収し、多くの料理には中央アジア料理と共通するものが多いです。イスラム教徒が多いため豚肉ではなく、基本的には馬・羊・牛を食べます。味付けは塩ベースのシンプルなものが多く、日本人の舌にも合うものが多い印象です。

○シャシリク：肉の串焼き。肉はお酢・塩・スパイスなどのマリネ液に漬け込んでおく。レストランや屋台、BBQなどで食べられる大人気料理。



○ラグマン：トマトベースの味で、白菜・玉ねぎなどの野菜と肉がたっぷり入った麺料理。もちもちした手延べ麺はまるでうどんのようで、ナポリタンのように麺とソースを絡めたものもあれば、スープパスタのように麺の上からスープをかけたものもある。また、ご飯にラグマンのスープ（具）をかけたものは「ガンファン」という料理になる。



4. おわりに

はじめての海外出張で不安な部分がありましたが、同行頂いた方々の協力が無事に乗り切れたことを感謝申し上げます。

野球と私「なぜ私の月曜は、いつも満身創痍なのか」

八千代エンジニアリング株式会社 北東北統括事務所 戸田 和 総

1. 自己紹介

「週末に野球がしたい」。その一心で2022年に現在の会社へ転職しました（というのは半分冗談で、半分は本気です）。前職は平日休みだったため、友人たちの楽しそうなSNS投稿を、指をくわえて眺める日々。今では念願の草野球の世界に飛び込み、週末の全身筋肉痛を栄光の勲章だと噛みしめています。一応、ゴルフやキャンプも嗜みますが、結局のところ、野球のユニフォームが一番しっくりくるようです。

2. 野球を始めたきっかけ

きっかけは、積年の「羨望」です。平日休みの窓から、輝かしい週末を謳歌する友人たちの姿を眺め、「いつか自分も…」と誓う日々。カレンダー通りの休みに変わった瞬間、「今だ、行け！」と内なるリトル戸田が叫びました。勢いそのままに、友人に紹介してもらいチームの門を叩いたのが、私の輝かしい(?)草野球人生の幕開けです。

3. 所属チームとそれぞれの魅力

現在は、天国と地獄ほど雰囲気の違い2つのチームに所属し、野球の奥深さを味わっています。

一つは、もはや修行の域に達する早起き野球のチームです。日の出前の集合時間は、体内時計が悲鳴をあげる過酷さ。学生時代に夜通し騒いだ帰り道で見た朝日を、まさかスポーツで拝む日が来るとは…。しかし、ひとたびグラウンドで白球を追いかければ、あの頃の不健康な自分を浄化するような爽快感が待っています。試合中はエラーしても笑いが起きるほどの平和

な雰囲気、心のデトックスにも最適。一日がやたらと長く感じるのも、早起きのご褒美です。

もう一つは、朝とは別世界の主に土日に活動しているチームです。こちらは「楽しむ」の前に「勝つ」が来る、常にアドレナリン全開の戦闘集団。朝の和やかな空気を引きずって行くと、その温度差で風邪をひきそうなほど、ここは真剣勝負の場です。先日、対戦相手にかつての旧友を発見した際には、「あいつにだけは負けられん！」と個人的なライバル心を燃やし、チームの勝利以上に自分のホームランを狙ってしまいました（結果はご想像にお任せします）。



写真1：試合前の元気な姿（このあと地獄を見ることになるうとは…）



写真2：試合に大敗し引き上げる様子…



補修設計における DX への取り組み事例について

株式会社復建技術コンサルタント 鈴木 勝 浩

1. はじめに

建設業界におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）は、業界全体の効率化、生産性向上、品質改善、さらには持続可能性の向上を目指して推進されている。

これまで建設業界は、労働集約型でアナログな作業が多いとされてきたが、近年の技術革新や人手不足、高齢化といった課題に対応するため、DXの導入が急務となっている。

本稿では、このような背景を踏まえ、補修設計におけるDX技術の活用事例について紹介する。

2. 3次元データ（点群・モデル）による業務効率化

2.1 既設構造物の可視化

既設構造物には、竣工図書に記載されていない付帯設備が設置されている場合があり、補修設計時に現場計測に多くの時間を要することがある。本事例では、横断歩道橋の補修補強設計を実施するにあたり、現地計測の効率化を目的として、ハンディタイプのレーザースキャナを用いた3次元計測を行い、3次元モデルを作成した。このモデルを活用することで、新規取付部材との干渉チェックを効率的に実施することが可能となった。

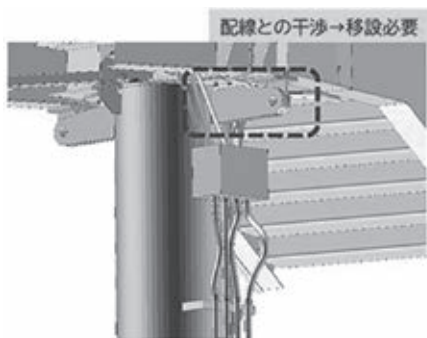


図-2.1 3Dモデル図

2.2 跨線橋架線位置の計測

跨線橋の補修設計では、軌道位置の確認や架線からの離隔を正確に把握することが重要である。しかし、

現地への立ち入りや計測時間には制約があるため、設計工程のクリティカルパスとなる場合がある。そこで、ハンディタイプのレーザースキャナを用いて3次元計測を行い、架線位置や軌道位置を正確に把握した。このデータを基に、補修設計や施工計画に反映させることで、設計プロセスの効率化を図った。



図-2.2 軌道内計測図

3. DXによる効果

ハンディタイプのレーザースキャナを活用し、既設部材の撤去、新設部材の取付、橋体、付属物や添架物との取り合いを3次元計測・モデル化して事前確認を行った結果、以下の効果が得られた。

第一に、道路規制や時間制約のある軌道内作業の効率化が実現し、作業効率が向上した。次に、高精度な計測により補修工事時の手戻りを削減することが可能となった。さらに、鉄道管理者との合同現地調査では、計測画像を活用して既設架空線と橋梁の取り合いを提示しながら確認を行うことで、現地確認時間の短縮や速やかな合意形成を図ることができた。

4. おわりに

今後、建設業界におけるDXの進展により、現地作業や設計技術のさらなる効率化が期待される。我々技術者は、これらの技術を積極的に検証・活用し、建設業界が直面する人手不足や高齢化といった課題を克服していく必要がある。そのためにも、日々自己研鑽を重ね、技術力の向上に努めていくことが求められる。



点検支援技術の検証により選定した4技術による 気仙沼湾横断橋の点検

復建技術・大日本コンサルタント設計共同体

株式会社復建技術コンサルタント 小松 昭彦

本業務は、気仙沼湾横断橋の海上部、橋長L=680mの鋼3径間連続斜張橋について、4技術の点検支援技術により、橋梁定期点検を行ったものである。

点検支援技術の選定にあたっては、効率化、省力化を第一に、維持管理リスクを整理・考慮し、診断を行うために必要な部材の状態に関する情報を取得出来るか検証した。また、通行止め等の交通規制を行わずに実施できる技術を選定する必要があったため、点検支援技術性能カタログより性能（精度・信頼性）を確保するための条件を確認した。上記性能を検証し、適用可能かキャリブレーションを行い、適用可能な点検支援技術4技術（図-1）を最終的に選定して点検を行った。これにより、効率化・省力化が図られ通行規制縮減やコスト縮減を実現することを最終的に検証し、点検を完工した。

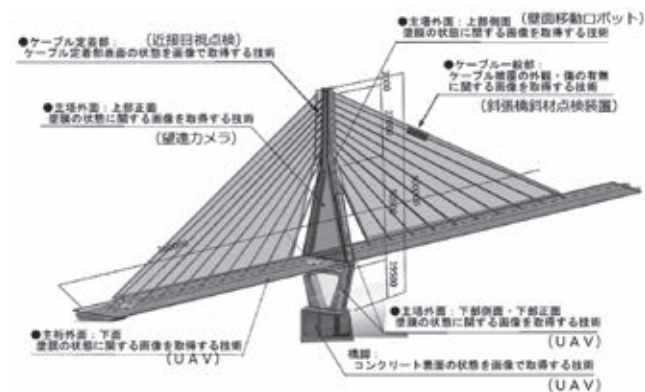


図-1：部材毎に必要な技術と点検方法

点検支援技術による点検①：斜ケーブル

斜ケーブルについては、ケーブルを自走でき、ケーブル全長の表面における動画撮影が可能な点検支援技術を選定した。気仙沼湾横断橋の斜ケーブルは起終点の主塔で異なり、ディンプル構造とスパイラル構造が存在した。点検支援技術性能カタログの性能確保条件には構造に関する記載は無いため、試行を行い走行可能か確認した。また、走行速度等の効率性も試行にて確認し規制日数やコストが過剰とならないかを確認し

た。スパイラル構造については、スパイラルの凹部から撮影箇所に入り込む不具合が生じたため、点検機械を遮光仕様へ改良した。再検証を行った結果、点検は可能であることを確認した。以下に点検状況を添付する。(写-1)



写-1：斜ケーブルの点検状況

点検支援技術による点検②：UAV

点検計画時点では、点検支援技術性能カタログにおいては鋼部材への適用性がある画像技術取得の掲載が無いため、各開発者へヒアリングを行い、鋼部材の塗膜割れ等の検出が可能な機種を抽出した。

点検支援技術性能カタログに登録されているのは、コンクリート構造物に対しての性能だけ規定されており、計測精度はひび割れ幅の記載のみであった。このため、JIS規定にある塗料はがれの等級表における最小値である1mmを目標値に設定した。塗装使用を模した供試体を作成し、1mmの変状が確認できるか検証を行い、現場で採用できることを確認した。

今回我々を悩ましたひとつに、気仙沼湾横断橋は主桁外面にボルトが少なく、特徴の無い様な表面であるため、カメラのピントが合わせにくく、撮影した画像の重ね合わせが難しく、画像の合成化にかなり苦労した。

主桁は通常の四角形の箱断面ではなく、横風を受けにくい扁平な六角形の構造のため、キャリブレーションは、撮影方向の異なる桁左右下面、桁側面の3方向で行った。撮影条件を変更しながら悪戦苦闘し、4日間を要しキャリブレーションを行った。これにより、各方向で撮影可能な条件が確認され、3方向で異なる撮影条件で点検を行った。以下に点検状況を示す。(写-2)



写-2：UAVによる点検状況

点検支援技術による点検③：望遠カメラ

鋼部材への適用性を点検支援技術性能カタログに掲載の条件下（風速、天候等）にて実施した。検証距離は、主塔の比較的近い位置である40m、70m、主塔の端部上端付近となる100mの3ケースにて実施した。

望遠カメラについても、UAVと同様に塗装使用を模した供試体を設置し、1mmの変状が確認できるか検証した。全ての検証距離において確認可能であったため適用性を確認した。以下に点検状況を添付する。(写-3)



写-3：望遠カメラによる点検状況

点検支援技術による点検④：壁面移動ロボット

UAVと同様に、鋼部材への適用性を点検支援技術性能カタログに掲載の条件下（風速、天候等）にて実施した。塗装使用を模した供試体を設置し、1mmの変状が確認できるか検証し、確認可能であったため適用した。以下に点検状況を添付する。(写-4)



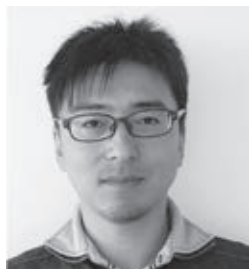
写-4：壁面移動ロボットによる点検状況

あとがき：

本業務で、客先から気仙沼横断橋は、点検支援技術でやるという連絡をうけ、途中まで従来技術で行う計画はすべて白紙となった。それからは、地獄……。点検計画は、点検支援技術を採用するため、まずは各工種を抽出、その後、打合せを繰り返し、現場にて検証を行い、ようやく点検支援技術性能カタログ3技術、その他工種1技術の全4技術にて行うことに決定した。ここまでかなりの工程（工期）を要し、実際に点検に着手したのは、晩秋から初冬にかけての時期……。この時期は、すでに気仙沼湾には、強風の季節風が吹きすさび点検支援技術には不適な時期でした。案の定、現場は強風により、中断中止を余儀なくされ、終了は、早クリスマス……。

本業務では、効率化・省力化・安全性向上・社会的影響の縮減が可能になり、診断を行うための部材の状態に関する情報を取得でき、点検費用についても従来点検方法と比較した結果、経済的となった。

本業務では、現場での省力化を主とした点検となったが、将来的、5年度点検時には、この点検結果をもとに、更なるAIの導入により、内業の省力化も考えたDX化を進めていきたい所存である。



令和6年度「みちのくインフラDX奨励賞」を受賞して

新和設計・庄内測量設計舎設計共同体
新和設計株式会社 安達 和也

1 はじめに

「みちのくインフラDX奨励賞」は、東北地方におけるインフラ分野のデジタル技術（DX）の活用やi-Constructionの推進を目的に創設された表彰制度であり、令和6年度もインフラ分野に係る設計、施工、維持管理等の効率化・省力化を実現した幅広い取組が表彰されました。

今回、私たち新和設計・庄内測量設計舎設計共同体で実施した業務が山形県からご推薦をいただき、工事・業務部門（地方公共団体推薦）で受賞の栄誉に浴しました。本稿では、受賞業務の内容と取り組みをご紹介します。

2 業務の概要と課題

受賞業務は山形県置賜総合支庁建設部発注の「令和4年度（明許）道路施設長寿命化対策事業（補助・橋梁点検・補正）一般国道121号外百子沢橋外橋梁点検・診断業務委託」です。業務の目的は、支庁管内の対象とする道路橋の定期点検を行い、橋梁の健全度を適切に評価し、長寿命化計画の基礎資料とすることでした。

点検対象橋梁には、上下線併設の広幅員橋梁や側道橋のような狭幅員橋梁が含まれており、山形県保有の橋梁点検車（タダノBT-200）では進入不可や点検範囲不足が生じ、十分に点検が出来ない点が問題でした。

従来であれば、大型橋梁点検車やクローラ式橋梁点検車等の特殊車両の使用が採られますが、これには機械経費の増加、一般交通への影響増大が伴います。限られた予算・期間の中で、適切な診断を行うに足る精度の点検を効率的に実施することを課題としました。



写真1 従来の狭幅員橋梁の点検

3 DX技術の活用による解決策

上記課題に対応するため、「360度周囲を認識するドローンを用いた橋梁点検支援技術（Skydio）」（国土交通省点検支援技術性能カタログ：BR010043-V0325）を導入しました。

Skydioは6基のナビゲーションカメラを搭載し、Visual SLAM技術により自己位置を推定しながら飛行するため、GPS信号が届かない桁下空間でも安定した飛行が可能です。撮影カメラは真上～真下に180°可動し、床版下面や支承部など従来のドローンでは困難だった箇所の撮影が可能です。



写真2 Skydioによる点検状況

また、取得した画像データはAI画像解析ソフト「ひびみつけ」（国土交通省点検支援技術性能カタログ：BR010024-V0525）にアップロードし、自動で合成・ひび割れ検出・幅計測を実施しました。従来の点検員によるチョーキング、クラックスケール計測、野帳記録の工程を自動化し、作業効率の向上を図りました。面部材はSkydioの自動飛行で連続撮影し、画像合成に適したラップ率を安定して確保しました。

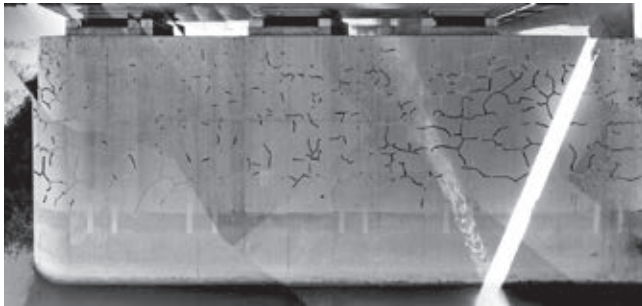


写真3 Skydio自動撮影画像によるひび割れ自動検出

4 得られた効果

本取組によって以下の効果を得ることができました。

・安全性の向上

従来は点検車を用いて行っていた点検を、ドローンによって実施することで、高所作業や河川内作業を大幅に削減しました。これにより、作業員の転落・墜落といった労働災害のリスクが低減され、安全性が向上しました。

・効率性の向上

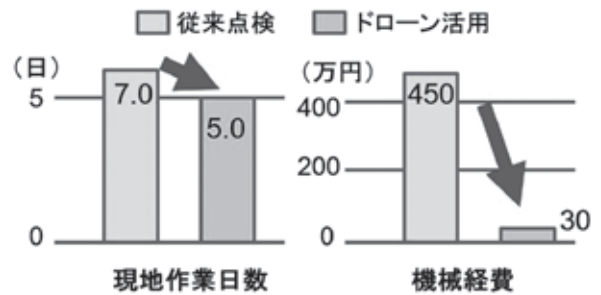
Skydioは小型のドローンであり、非GNSS環境下でも安定飛行が可能で、床版下面や支承部等を効率的に撮影、記録できました。これにより、従来7日以上を要した点検を5日で完了でき、作業工程を短縮しました（約30%短縮）。

・コスト縮減

特殊車両使用が不要となり、機械経費を大きく削減できました（約93%低減）。特に短工期化と併せて、経済的な効果が明確に確認されました。

・品質・信頼性の向上

AI解析「ひびみつけ」により、ひび割れの自動検出や幅計測が可能となり、従来のスケッチやチョーキング作業を省略できました。解析結果は客観性と一貫性を有しており、点検成果の品質と信頼性が向上しました。



※ドローン活用橋梁は、活用効果（当社比）地上点検を併用し実施。

図1 活用による作業日数、機械経費の効果（対象7橋）

5 期待する波及効果

今回の受賞は一業務にとどまらず、地域全体への波及効果が期待されると考えています。本取組で活用した機体、技術は習熟が比較的容易な機体であり、地元企業による継続的な運用が可能です。この取り組みを共有する展開として、「インフラメンテナンス国民会議東北フォーラム令和5年度マッチングイベントin山形」や「山形県道路メンテナンス会議 令和6年度道路メンテナンス研修（新技術活用編）」において、積極的に技術紹介を実施しました。点検業務の効率化は、技術者不足が深刻化する地方において特に意義が大きく、持続可能な維持管理体制の構築に寄与するものと考えています。

6 おわりに

点検手法の特性を十分に理解したうえで、今後は、点検のベストミックスを図っていきたいと考えています。AI解析技術の精度向上やドローンの性能向上と相まって、DX技術はインフラ分野でますます実用性を高めていくことと予想されます。こうした新技術を単なる実験的導入で終わらず、「地域の企業が自らの力で継続的に運用できる技術」として根付かせていくことを目指します。

●謝辞

本受賞に際しまして、多大なるご指導とご助言を賜りました山形県県土整備部及び置賜総合支庁建設部関係各位に厚く御礼申し上げます。今回の受賞を励みとして、私たちはこれからも地域のインフラ維持管理におけるDX推進に尽力し、地域社会の安全・安心に貢献してまいります。

みちのくインフラDX奨励賞受賞（民間企業部門） 相双地区交通拠点調査検討業務におけるAI画像解析による省人化の取組

株式会社建設技術研究所 佐野 薫

1. はじめに

東北みらいDX・i-Construction連絡調整会議にて、みちのくインフラDX奨励賞（民間企業部門）を受賞した「相双地区交通拠点調査検討業務におけるAI画像解析による省人化の取組」について報告します。

2. 本取組の概要

国土交通省では、大規模ターミナルや高速SA・PA、道の駅等を対象とした交通結節機能強化の整備・検討を進めています。整備・検討にあたり、現状の移動サービスに加え、施設の利用ニーズや施設内の利用実態を把握する必要があります。その中で、施設内は、従来の実態調査手法における現地計測やデータ化、集計・分析のための多大な労力が課題となっていました。

本取組では、上記の課題を解消するため、①駐車場出入口で取得した映像に基づくナンバープレート調査（図-1）、②建物内で取得した映像に基づく施設内人流調査（図-2）についてAI画像解析を導入しました。また、施設内の映像取得にあたり、IoTデバイスによる小型カメラを作成し、施設利用者の安全性や行動の妨げにならないよう設置しました（図-3）。



図-1 AI画像解析による文字の自動取得



図-2 方向別通過人数のAI自動計測

図-3 作成した小型IoTカメラ

調査結果について、①の調査では、車籍地、入庫車両のマッチングによる入庫時間別駐車時間等、詳細な情報を精度高く把握できました。②の調査では、買い物・食事・トイレ他、各目的施設の出入り状況を

把握できました。今回、取得映像の読み取り・集計にAI画像解析を活用したことで、人手対応よりも大幅なコスト削減を確認できました。

3. 本取組の特長

本取組の特長を、有効性、先進性、波及性の3つの視点で整理します。

有効性：現地映像のデータ化にAI画像解析を活用することで、人手による目視確認のコストを大幅に解消（目視：16人日→AI：0.5～1人日）。AI画像解析の取得精度も①の調査の読取率（読取台数／通過台数）や調査時間内の入出庫の合致率が概ね95%内、②の調査の断面通過者の検知率が概ね±10%以内を確認。

先進性：①の調査で誤検知の多い車籍地は、既存の車籍地画像からAI判定を行い、他のOCRによる文字認識を組合せ、高い精度を確保（OCRのみ：90%→組合せ：99%）。②の調査では、人物検知AIに従来の全身検知モデルと自社開発した頭部検知モデルを併用により、映像内の人物特定の精度を向上。

波及性：①の調査は、利用実態を把握できていない無料駐車場において、活用する機会が多い。②の調査は、MACアドレスのランダム化により従来の調査が難しくなった、携帯電話側のWi-Fiパケットセンサーによるデータ取得方法に代わる手法として活用が期待。

上記を踏まえ、本取組は、長期間や時期による複数回調査、広域な施設等の場合、より効率的な取組であることも確認できました。

4. さいごに

本取組は、令和5年度に国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所からの受託業務の中で検討したものです。当時の磐城国道事務所や地元自治体、道の駅なみえ等の関係者の皆様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2年間の振り返り

大日本ダイヤコンサルタント株式会社 西 保 亘

1. はじめに

2023年に入社し、地元茨城から仙台に引っ越して来て早くも2年が経過しました。まだまだ未熟な部分がありますが、ようやく新しい環境にも仕事にも慣れました。

この度は貴重な機会をいただきましたので、建設コンサルタント（地質）として働いていて感じたことを述べさせていただきます。

2. 2年目を振り返って

入社時から主にボーリング調査を中心とした地質調査に携わっています。2年目になり、業務の主担当を経験して感じたことは、自分の仕事の大切さと責任の重さです。主担当として業務に取り組み、自分の言動が社内外の多くの人に影響を及ぼしうることを理解しました。また、それに伴い、コミュニケーションを密にとることの大切さを実感しました。ボーリング調査を実施する上では、社内関係者や上長、測量やボーリングの協力会社、作業場所の地権者や周辺住民、業務の発注者など多くの人とコミュニケーションを取り、認識の齟齬が無いように業務を進める必要があります。

特に現場では、関係者それぞれの立場や考えを理解し、柔軟に対応する力が求められていると感じました。時には専門用語や技術的な説明が必要となる場面もあり、いかに分かり易く伝え、互いの理解を深めるかが非常に重要です。一方で、自分自身の知識不足や経験の浅さから、関係者の信頼を得る難しさも痛感しました。現場の円滑な進行には、丁寧な事前準備と確実な情報共有が欠かせません。それでも、少しずつ自分の意見や判断が受け入れられるようになり、やりがいを感じています。

現場での経験を重ねるたびに、技術力の向上と同時に、臨機応変な対応力や問題解決力が求められることを強く感じています。特に地質調査の現場では、事前に想定していなかったトラブルや、天候によるスケジュールの変更、地権者の方との調整など、想定外の状態に直面することも多々あります。その都度、上司

や先輩方のアドバイスを仰ぎながら試行錯誤を重ねることで、多くは乗り越えてきました。

3. 仕事の面白さ

個人的に建設コンサルタントという業種の面白い点は、いろんな場所を訪れることが出来る点です。時には山の奥に、時には町の中に行き1週間以上滞在することが多いので、出張先の様子を広く知ることが出来ます。現場作業は大変なことや頭を悩ませることは多いですが、現場作業ならではの楽しみもあり、うまくバランスを取りながら仕事に取り組んでいます。

4. おわりに

失敗から学ぶことは多く、うまくいかなかったことを振り返り、再発防止策を考えることが自身の成長に繋がっていると実感します。また、発注者や協力会社、現場の作業員など多くの人との関わりを通して、相手の立場や考えを理解し、敬意を持って接することの重要性も学びました。

業務遂行という点では経験が生きてくることが増えてきましたが、コンサルタントとして必要な専門知識は大きく欠如しているため、3年目は専門性を高める一年としていきたいです。



写真 仕事で訪れた田沢湖

技術士合格体験記

株式会社建設技術研究所 石 崎 諒

1. はじめに

この度、「建設部門 河川、砂防及び海岸・海洋」に合格いたしました。二次試験は、計5回受験し、令和6年度にようやく合格できました。ここでは、合格した年度における技術士二次試験合格に向けた一個人の体験談として準備、対策した内容等を記載させていただきます。

2. 受験の動機

入社後に資格の重要性・必要性について理解しました。正直なところ受験資格を得てからは、試験の雰囲気掴みとして漠然と受験し落ちていました。しかし、中堅社員となりつつあること、家庭をもったことを契機に真剣に取り組み、合格を目指して受験するようになりました。

3. 申し込み

合格した年度は、申し込みが開始する日に下書きを作成し、すぐに上司の方々に添削をいただいていた。その後、1週間以内に郵送して、すぐに筆記試験に向けて動き出しました。

4. 筆記試験

4月は、国土交通白書、国土交通省予算概算要求概要などキーワードとなるものが記載されている資料や過去問、過去の合格事例、A評価となる論文を収集しました。

その後、社内外の研修に参加し、骨子の作り方やコンピテンシーの確認、文章の書き方を学びました。講習を受けた後は、様々なキーワードに対する回答として骨子（問題提起、問題要因、観点、課題、解決策、その後のリスク）を箇条書きで準備していました。

骨子を整えた後は、合格事例を参考に論文形式として書き起こし、社内の方に添削いただきながらA評価論文となり得る論文を複数作成しました。

筆記試験2、3週間前からは、準備した論文をひたすら手書きで紙に写し身体に沁み込ませました。

本番では、極度に緊張しながらも練習した文章の書き方を実践できました。

5. 口頭試験

筆記試験の準備よりも口頭試験の準備が大変でした。11月初旬に筆記の合格発表があり、口頭試験の日程を確認すると口頭試験期間の初日で大変慌てました。

半分パニックになりながらも可能な限り社内外における模擬面談（計8回）を受けながら想定問答の作成、ブラッシュアップを行いました。また、食事が喉を通らなかったため、副次的な効果で大幅なダイエットに成功しました。

試験当日は、想定問答を読み返しながらコンピテンシーについて何度も再確認し本番を迎えました。実際に始まった際には、8回にもおよぶ模擬面談が活かされたのか面接官に対し自信を持って回答することができたと思い返しています。

6. おわりに

二次試験受験にあたっては、社内外大変多くの方のご指導・ご配慮を頂きました。

今後は技術士として技術と人格を磨き、これを発揮し広く社会貢献していくことで少しでも恩返しができればと思います。

ご指導して頂きました皆様、協力・激励していただいた上司や同僚、協力してくれた家族に改めて感謝を申し上げます。

技術士合格体験記

三井共同建設コンサルタント株式会社 梅 原 有理子

1. はじめに

私は令和6年度の技術士試験 総合技術監理部門に、幸運にも1回目の受験で合格することができました。本稿では、合格までの体験や試験対策についてご紹介いたします。

2. 受験動機

令和3年度に建設部門の技術士資格を取得し、管理技術者として河川計画・水防災の業務に携わってきました。社内に総合技術監理部門の合格者がいたことをきっかけに、自分も挑戦してみたいと思うようになりました。まずは一度挑戦してみようと考え、受験の申し込みをしました。

3. 筆記試験対策

総合技術監理部門の筆記試験では、択一問題と論述問題が出題され、いずれも6割程度の得点が合格ラインとされています。

(択一問題対策)

5月頃から択一問題の勉強を始めました。過去8年分くらいの過去問を繰り返し解き、分からない内容は参考書を使って確認しました。初めは財務などの分野で全く知らない内容が出てくるので、2割程度しか得点できませんでした。何度も繰り返し過去問題を解くうちに徐々に傾向がつかめ、最終的に6割程度は正解できるようになりました。最後には、参考書に載っている模擬択一試験を解いて6割正解できることを確認しました。実際の試験でも6割程度は正解できたと思います。

(論述問題対策)

参考書に掲載されている論文作成例を読み、論文の構成や合格レベルの内容(密度・理論性)を把握しました。筆記試験の合格率は1~2割程度であるため、

10人中の上位2人に入る「良く書けている」論文が求められていると思います(使用した参考書:日刊工業新聞社『技術士第二次試験「総合技術監理部門」難関突破のための受験万全対策』)。論述問題は参考書を読むだけの対策で、論文作成はしていません。

令和6年の論述問題では、地球環境問題の「カーボンニュートラル」について出題されました。まず問題を一見して自分の専門分野ではなく戸惑いましたが、問題文を丁寧に読み、自分の持っている知識の中から書けそうなことを抽出しました。

当日の試験で意識したポイントは以下の通りです。

- ・経済性、安全性、社会環境、情報、人的資源の各視点から課題を整理し、複数の観点を提示しました。
- ・普段からテレビやニュース、講習会などで広く見聞きして得た知識を思い出して、具体的かつ広範に論述しました。特段、論述問題のための特別な勉強は行いませんでしたが、日頃の情報収集が役立ったと感じています。

4. 口頭試験

口頭試験対策としては、筆記試験の合格以降に社内で数回、模擬面接を受けました。実際の試験では「総監の視点」での説明が求められたのですが、求められるレベルの回答ができた実感はありませんでした。不合格も覚悟していたのですが、最終的に合格通知を受け取ることができ、安堵しました。

5. おわりに

総合技術監理部門で求められる能力は、安全管理や人的資源のマネジメント、環境への配慮など、日常の業務と共通する部分が多くあります。今後も知識をさらに深め、的確な状況判断と対応ができるよう努めていきたいと思っています。



令和7年度 ICT 専門委員会「技術講習会」

技術部会 ICT 専門委員会
株式会社復建技術コンサルタント 市川 健

1. 日時・場所等

- ・日時：令和7年6月25日(水) 13:30～15:30
- ・場所：PARM-CITY 131 貸会議室(仙台市青葉区)
- ・講習会形式・参加者数：対面方式、57名
- ・主催：技術部会ICT専門委員会
- ・主旨：担当技術者の技術力向上を目的とし、
BIM/CIMをテーマとした講習会
上記講習会を開催しております。

2. 講習題目と講師

- ・題目：BIM/CIM技術講習会（初級編・中級編）
- ・講師：八千代エンジニアリング株式会社
金光 都 氏、浅野 洋平 氏



写真1 金光氏



写真2 浅野氏

3. 講習会の内容

講習会は「身の回りの3Dの世界」といった内容から始まり「BIM/CIMの概要」、「現況地形・地物をどのように作成するか」、「CIMの活用事例の紹介」、「デジタルツイン」など、これからCIMに挑戦する方、

また三次元データを活用したい方にマッチした内容でした。

また、国土交通省（PLATEAU）や静岡県オープンデータの活用事例についても複数取り上げられ、CIMに限らずさまざまなデータ活用事例をご紹介いただきました。会場から多くの質問があがるなど、大変有意義な講習会となりました。



写真3 会場の様子

4. おわりに

ICT専門委員会は、2019年に新設された委員会です。コロナ禍の影響もあり、今回が対面で実施する2回目の技術講習会でした。ご多忙のなか参加くださった会員の皆さま、遠方にも関わらず快く講師を引き受けてくださった金光様・浅野様、CPD申請から当日の受付までを強くサポートしてくれた東北支部事務局および委員各位に深謝いたします。今後も、支部会員の皆さまの技術力向上の一助となるような講習会を企画していきたいと考えております。

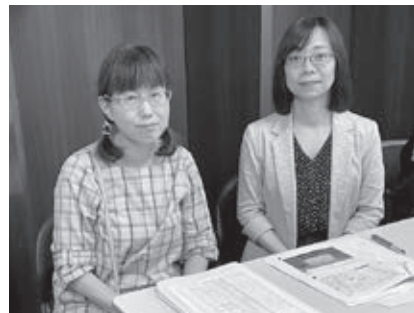


写真4 受付の様子

第23回（令和6年度）高校生「橋梁模型」作品発表会の開催報告

総務部会長

株式会社長大 長 南 憲 一

1. はじめに

高校生「橋梁模型」作品発表会は、平成14年度から毎年開催され、令和6年度で23回目の開催となります。第1回目は宮城県内の土木系学科からの応募でしたが、現在は東北6県の高等学校及び高等専門学校からの応募となっています。

令和6年までの応募作品数は861作品、応募学校は延べ408校となっております。本発表会は、未来の技術者である高校生を対象に、橋の模型作りの体験（楽しさ、創意工夫）を通じて、橋の知識の習得とともに、社会を支える基盤となる橋等の土木構造物への理解を深めて頂くことを目的に開催されております。

2. 作品の応募要項

応募作品には「作品の課題」と部門毎の規定が設定されています。

■作品の課題

【模型部門】

- ①国内外を問わず実在する橋の模型
- ②国内外を問わず過去に存在した橋の模型
- ③実際にはない形式・構造の橋、夢のある橋の模型

◇作品寸法

長さ1.5m以下、平面積（土台含む）0.6㎡以下、
高さ1.0m以下、重さ10kg以下

【デジタル部門】

- ①国内外を問わず実在する橋の3D-CADデータ
- ②国内外を問わず過去に存在した橋の3D-CADデータ
- ③実際にはない形式・構造の橋、夢のある橋（漫画、アニメ上の橋梁含む）の3D-CADデータ

3. 建設コンサルタンツ協会の担当役割

建設コンサルタンツ協会総務部会は、実行委員会として協力を行いました。実行委員会は、東北地方整備

局東北技術事務所を事務局とし、令和5年度より東北地方整備局東北道路メンテナンスセンター及び建設コンサルタンツ協会の他4団体で組織され、第1回会議で前年の実施報告、今年度の実施(案)の議題について審議し、第2回では作品の申込状況や審査員の推薦依頼を受けます。

4. 審査方法

今年は令和7年1月23日に一次審査会を国土交通省東北地方整備局東北技術事務所で開催しました。審査員の構成は、審査委員長を東北学院大学工学部武田教授、審査員は各構成団体より1名となっており、我々建設コンサルタンツ協会は例年技術部会にお願いをさせて頂いております。

今回は東北5県の14高校から18作品の応募がありました。一次審査では、「構造」「外観」「アイデア」を観点に、審査・評価します。二次審査では、一次審査の審査結果に、二次審査会へ来場された一般参加者の投票や、審査員の作品プレゼンテーションの評価が加えられた合計の平均をもとに審査・評価します。これまでの審査は上記3つの観点からなる得点を合計した「総合（合計）得点」により行ってきましたが、より模型の個性を評価できる各部門の第1位から第3位までの作品に賞を授与します。

①最優秀賞（総合優勝）1作品

構造+外観+アイデア+製作プレゼンテーションを含めた総合評価の最高位

②ストラクチャル大賞（構造部門）3作品

③ビジュアル大賞（外観部門）3作品

④アイデア大賞（アイデア部門）3作品

⑤イマジネーション大賞（想像橋部門）1作品

⑥デジタル大賞（CAD動画・データのみ提出限定部門）1作品（今年度の応募はなし）

⑦模型製作プレゼンテーション大賞（プレゼン発表）
2作品

⑧審査員特別賞（特別賞） 1作品

⑨入賞 該当作品数は変動

⑩奨励賞（ニューフェイス賞） 1作品

※②、③、④、⑦は重複受賞あり。

5. 作品発表会

令和6年度（2024年度）高校生「橋梁模型」作品発表会は令和7年2月13日にエル・パーク仙台で開催。一般の方も多数ご来場、審査投票にご参加いただきました。

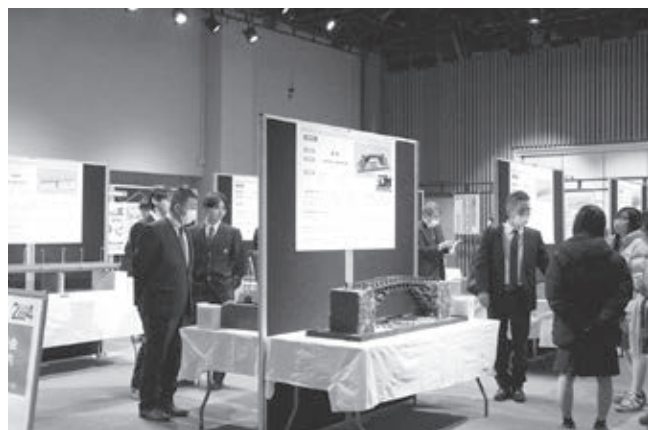


写真-1 会場の様子

当日は実行委員長の開会あいさつから始まり、参加各校による「プレゼンテーション」、(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会技術部会委員の阿部氏を講師に迎えての「特別講演」が開催されました。審査結果発表では全18作品のうち、想像橋の1作品、実在橋の11作品が入選となりました。今回は「デジタル部門」の応募がありませんでしたが、業界としてもDXへの取り組みは必要ですので、今後は将来の技術者である高校生の皆様にも是非挑戦していただきたいと思います。

高校生が制作した模型は細部までこだわり、丁寧に作られており、実際にその橋梁を見ているかのように思わせられるものばかりでした。



写真-2 記念撮影

6. おわりに

高校生「橋梁模型」発表会は現在23回目まで実施されてきました。令和7年度（第24回）も実施される予定で、すでに募集も始まっております。また、入賞作品については令和7年6月4日（水）から5日（木）に夢メッセみやぎで開催された「EE東北'25」においてもたくさんの来場者に橋梁模型作品を見ていただきました。

高校生には、ぜひ、未来の土木技術者、建設コンサルタントとして活躍してほしいと感じました。建設業を目指す高校生の未来も、業界一体となって支えていく使命があります。建設コンサルタンツ協会東北支部と致しましても、近い将来の建設業を、また未来を担う若い技術者がさらに建設業に興味をもって頂けるよう、このような活動を継続実施して参りたいと思います。

なお、第23回（令和6年度）高校生「橋梁模型」の素晴らしい作品集は、下記のURLからご覧下さい。

※）国交省東北地方整備局東北技術事務所ホームページ内

第23回（令和6年度）高校生「橋梁模型」作品集
<https://www.thr.mlit.go.jp/tougi/kyoryomokei/R6/index.html>



令和7年度 建コン東北支部交流会

総務部会 株式会社長大 安倍 忠 和

令和7年6月21日(土)、建設コンサルタンツ協会東北支部 総務部会の主催により、BBQ交流会が開催されました。会場となったのは、宮城県名取市に位置する「かわまちてらす閑上」。自然と都市が調和した開放的な空間で、初夏の爽やかな風が心地よく吹き抜ける中、東北地域の建設コンサルタント業界に携わる多くの関係者が一堂に会し、終始和やかで温かな雰囲気の中、活発な交流が行われました。



本交流会は、業界内の相互理解を深め、企業や技術者同士の連携を強化することを目的として企画されたものであり、日頃の業務から少し離れ、肩肘張らずに語り合える貴重な機会となりました。特に今回は、新型コロナウイルス感染症の影響による制限が緩和されて以降、初めての対面によるBBQ交流会ということもあり、参加者の皆様にとっても再会の喜びと新たな出会いが交錯する、特別な時間となりました。

開会にあたっては、総務部会長よりご挨拶があり、協会活動の意義や今後の展望について熱意ある言葉が述べられ、参加者の皆様の関心と期待が高まる中で交

流会がスタートしました。

会場では、ジューシーな肉や新鮮な海鮮、季節の野菜など、色とりどりの食材が次々と網の上に並べられました。炭火で焼かれた食材からは香ばしい香りが立ち上り、参加者の食欲をそそるとともに、自然と笑顔がこぼれます。焼き上がった料理を囲みながら、参加者同士が談笑する様子は、まさに「食」を通じた交流の場としての理想的な光景でした。

テーブルごとに盛り上がる会話の輪が広がり、業務に関する情報交換だけでなく、趣味や家族の話題など、普段の職場ではなかなか聞けないような話も飛び交っていました。特に若手技術者が積極的にベテラン技術者に話しかける姿が印象的で、世代を超えた交流が自然と生まれていたことがうかがえます。



「かわまちてらす閑上」の豊かな自然環境と整備された施設は、参加者の交流をさらに促進する要素となりました。お子様連れの参加者は近隣の川辺で水遊びを楽しんだり、木陰でゆったりと過ごしたりと、家族全員がリラックスできる時間を過ごしていました。芝

生の上で遊ぶ子どもたちの笑い声が響き渡る中、大人たちはゆったりとした時間の中で語り合い、まるで一つのコミュニティのような温かい雰囲気が会場全体を包んでいました。

参加者からは、「普段話す機会のない方々とじっくり話すことができた」「業務外でのつながりが、仕事にも良い影響を与える」といった声が寄せられ、協会活動の意義を改めて実感する機会となりました。こうした声は、今後の活動の方向性を示す貴重なフィードバックであり、協会としても、より多くの方々が安心して参加できる交流の場を提供していくことの重要性を再認識するものとなりました。



さらに、屋外での活動を通じて、夏季の紫外線対策や熱中症予防など、健康管理への意識も高まりました。参加者の皆様が自然の中で過ごす中で、季節に応じた体調管理の重要性を再認識するきっかけとなったことも、本交流会の副次的な成果として挙げられます。

建設コンサルタンツ協会 東北支部では、今後も会員企業および技術者の皆様が安心して交流できる場を継続的に提供し、業界の発展と地域社会への貢献を目指して活動を続けてまいります。今回のBBQ交流会が、参加者の皆様にとって有意義な時間となったことを心より嬉しく思うとともに、今後のさらなる交流の機会に向けて、より一層の工夫と努力を重ねてまいります。



令和7年度 建コン東北支部交流会に参加して

株式会社長大 松田 智華子

1. はじめに

私は2024年に新卒で入社し、営業企画部として仙台で勤務しております。今回、建設コン支部会員交流会に参加し、感じたことを記したいと思います。

2. 交流会の様子

6月21日（土）建設コンサルタンツ協会 東北支部の総務部会主催の交流会が開催されました。本格的な夏の到来を感じる中、会場には会員の皆さんとご家族が集まり、にぎやかなひとときとなりました。



◇長南総務部会長の挨拶でBBQスタート

前回冬に行ったボーリング大会では、チーム戦ということもあり熱戦を繰り広げておりましたが、今回のBBQではそれぞれテーブルを移動してお話をしたり、お子さん連れの参加者は近くのお店や川をお散歩してみたりなど、会場は笑顔と会話があふれ、初めて参加された方もすぐに打ち解けておりました。参加者はゆったりとした時間を楽しみながら、交流を深めることができましたと思います。



◇お肉や海鮮、おにぎりもついて大満足でした

また、若手社員の参加者も多く、たくさんの意見交換をすることができました。自分たちから進んでベテラン社員とコミュニケーションをとることで、仕事や私生活などの今後について深く話すことができた貴重な機会だと思います。



◇参加者の皆さん



◇交流も盛んでした！



◇参加者のお子さんにもらった松ぼっくり

3. おわりに

この交流会を通じて、社外の人々との繋がりを深めることによって、より一層仕事に熱意を感じることができた人がいたのではないかと思います。互いに切磋琢磨しあえる存在に出会えたことに感謝し、これからは建設コンサルタンツ協会の一員として頑張りたいと思います。

建設技術公開 EE東北'25 について

株式会社ダイエツ 樋口 章 大

平成2年度に4団体、21社の参加による展示会としてスタートし、今年で34回目となる『建設技術公開 EE東北'25』が夢メッセみやぎで開催されました。EE東北のEEとはEngineering Exhibition（エンジニアリング・エキシビション）の略で、新技術を広く公開するという意味が込められており、建設関連分野に関わる新技術、新工法、新材料、その他時代のニーズに対応して開発された技術が毎年公開されてきました。

主催はEE東北実行委員会（委員長：東北地方整備局 企画部長）で19の建設関連団体等から構成され、建設コンサルタンツ協会東北支部もその1員となっております。

■開催概要

期 間：2025年6月4日（水）～6月5日（木）

場 所：夢メッセみやぎ

（宮城県仙台市宮城野区港3丁目1-7）

来場者数：18,300人（主催者発表値）

（内訳：6/4 10,000人、6/5 8,300人）

出展者数：384

出展技術：952

テ ー マ：『広げよう新技術 つなげよう未来へ』

また、新技術の展示以外にも基調講演、新技術プレゼンテーション、重機シミュレーター体験会の他、特設コーナーでは学生向けに出展企業との交流が図れるひろばも設けられるなど、様々なプログラムが各会場で行われました。

建設コンサルタンツ協会東北支部からは以下のとおり38社（グループ出展含む）が参加し、新技術の紹介や展示を行いました。



メイン会場入り口



屋内会場①



屋内会場②

■EE東北 '25 出展社・技術一覧（建設コンサルタンツ協会 東北支部）

	会員企業名	出展技術名	概 要
1	(株)アースデザイン コンサルタンツ	公共施設維持管理システム	3D-WebGIS及びストリートビュー機能により管理性が向上できる公共施設維持管理システムの提案
		測量・地質調査・設計業務における3次元モデルの活用	構造物の出来あがりを実際に再現。住民や利用者の理解を促進する3次元モデルが事業の推進に貢献します。
		災害援護資金管理システム及び修学資金管理システム	震災復興に関わる資金管理の一元化及び迅速な対応を実現するシステムの提案
2	朝日航洋(株)	オープンソースQGISを活用した河川維持管理	ライトユースから高度な解析まで誰でも自由に、無償で使えるQGIS
		一般車両の走行データを活用した道路見守りサービス	地域住民走行のクルマ情報を活用した「データの地産地消」により地域の道路環境向上を図るソリューション
		最新の計測技術と空間情報プラットフォーム	デジタルツイン計測技術「City Mapper」と最適プラットフォーム「Re:Earth」
3	アジア航測(株)	XR技術を活用したDXの推進	VR技術による三次元空間情報の活用
		3次元情報を活用した新たな街路樹の現状把握手法	MMSを活用して効率的に現況を把握
		ロボット点検支援技術の活用	UAVを使用して点検業務の負担を軽減
4	(株)ウスマ地域総研	調査・設計・維持管理におけるデジタル技術活用	調査・設計・維持管理の各工程で、状況に応じたデジタル技術を活用し、事業全体の円滑化に貢献
5	(株)エイト日本技術開発	inMap（インフラデータ管理システム）	GPSを活用したインフラデータ管理
		AI画像解析による自然環境調査	AIと映像解析で生態系を守る
		デジタルツールを用いた防災教育	VRとARで学ぶ未来の防災教育
		自律型無人計測艇（ASV）	シームレスな高精度3次元地形データの取得
		自律型無人潜水機AUV	水中調査の新たなソリューション
		Eye-Con360（全天球3Dモデリング）	簡単操作で3Dモデルを活用
6	応用地質(株)	VIBRES（ビブリス）システム	グラウンドアンカー残存緊張力の振動方式測定システム
		ハザードマッピングセンサ	多点モニタリングによる法面予防保全を可能とした防災システムを構築します
		OYO Tracker 4D	地盤の3次元可視化から4次元地中モニタリングへ
		物理探査を活用した河川堤防の弱部の抽出技術	物理探査（改良型牽引式電気探査）を活用した河川堤防の漏水に対する弱部抽出技術
7	オリエンタルコンサルタンツホールディングス／ (株)オリエンタルコンサルタンツ・ (株)アサノ大成基礎エンジニアリング・ (株)エイテック	インフラマネジメント支援システム（IMS）	自治体のインフラメンテナンスをトータルに支援します
		スマート防災（防災×DX）	by ALLとしての「流域治水」の取り組みに対して、DX技術により効率化・高度化を推進します
		アラートシステムを活用した冬期道路管理の高度化	アラートシステムを活用し、安全・円滑な道路環境の維持・提供に貢献します
		傾斜・土壌水分同時観測システム（ATK-SAMS）	斜面の変動と、地盤の土壌水分の変化を「同時観測」で常時監視設置実績あり（河川堤防、地すべり地等）
		MR技術を活用した「点検アプリ」の開発	～「現場」に、図面や管理項目を「投影」～
		ドローン（UAV）を活用した測量・調査・点検	ドローンおよび計測機器の特長を生かした測量・調査・点検をご提案します
		トンネル、構造物等の施工段階におけるBIM/CIM	設計から施工、維持管理まで活用可能なBIM/CIM技術支援により定量的な低コスト化・効果向上を目指し
		3D都市モデルの自動生成とハイブリッドモデル	現実の都市空間を再現する「3D都市モデル」を自動3D化により高品質かつ低コストでご提供いたします。
8	川崎地質(株)	下水道異常と空洞を発見する地中レーダシステム	路面上から下水道管渠の重篤異常部と起因して発生した空洞を同時に発見します！
		グラウンドアンカー飛出し防止装置（SAAM-F）	グラウンドアンカーの破断飛出しを独自のブレーキシステムで防護、急峻なり面でも仮設足場なしで設置可
		リフトオフ試験専用小型ジャッキ「SAAMシステム」	多数のアンカーを迅速かつ効率的に調査が可能、アンカーの荷重確認による健全度評価に最適
9	(株)建設環境研究所	河川における侵略的外来種の駆除方法	小笠原諸島母島で行われたアカギ（外来種）の駆除方法を応用し、河川における侵略的外来種の駆除を実施
		電子野帳Raptor-Kによる猛禽類調査のDX	鉛筆同様の滑らかな作図、入力と同時にGISデータ化、リアルタイムデータ転送！
		ゲームエンジンや360度動画によるVR景観	リアルな仮想空間、または現実の撮影動画で、将来景観を可視化し、合意形成を加速します！
10	(株)建設技術研究所	自治体の災害対応を強力にサポートする情報提供サービス	IoT監視観測パッケージ「みるわん」が、人手不足の自治体の災害対応を支援します！
		都市DXで進める新たな公共空間の計画設計支援	3D都市データの共創型コミュニケーションツールによるまちづくり
		VRを用いた維持管理点検の基礎技術習得研修ツール	橋梁定期点検の基礎技術の習得を目的としたVR（仮想現実）研修ツールの開発
		CO2回収・有効利用・貯留事業（CCUS）	石炭採掘跡等を利用した地下空洞へのCO2充填・固定に関する実証実験
		サステナブルな事業を通じた地域復興への貢献	下水汚泥肥料を活用したトウモロコシ栽培およびこれを原料としたウイスキーの製造
		有機フッ素化合物（PFAS）に関する分析技術	有機フッ素化合物（PFAS）の多成分分析による発生源の推定

	会員企業名	出展技術名	概 要
11	(株)構研エンジニアリング	トンネル点検模擬訓練システム TST 橋梁桁遊間異常のモニタリングシステム 附属物検知デバイス「フリークエンター」	トンネル点検を臨場感あるゲーム感覚で体験できます 目視点検では困難な温度による桁の動きを「見える化」します 附属物の取り付け状態等の健全性を触診によって把握する電源不要のデバイス
12	国際航業(株)	“はかる”×防災 “はかる”×安全	空間情報で未来に引き継ぐ世界をつくる 情報をつなげる力で、人、社会、地球の未来をデザインする 橋梁等のメンテナンスコスト削減にご活用ください！
13	国土防災技術(株)・ サンスイ・ナビコ(株)	蛍光X線分析装置を活用したコンクリート塩 分調査 高品質コア採取技術 QS (キューエス) ボー リング工法 特殊土質試験技術 Fixr (フィクサ) グラウンドアンカー工法 仮設ECOバインド工法 ロックボルトパッカー	第6回インフラメンテナンス大賞優秀賞受賞！ 軽量ボーリ ングマシンを使用した高品質コア採取技術 地すべり等の自然斜面や切土のり面等の人工斜面の安定度評価 に必要な「土の残留強度」を測定します！ 優れた維持管理性能・長期定着特性！ 斜面を短期的に保護！ 施工時の安全を確保する工法 鉄筋挿入工のグラウト充填不良対策に！
14	サンコーコンサルタント(株)	トンネルメタバース空間による点検結果共有 システム	トンネルメタバース空間による点検結果共有システム
15	(株)昭和土木設計	BIM/CIMをもっと身近に！ 実務で活かす 設計技術 三次元モデルを活用した調査・設計の高度化	実務に導入しやすい3次元設計の活用事例 現場に即した精度向上！ 三次元技術で設計の質を高める
16	新和設計(株)・(株)新和調査設計	竹筋コンクリート復活プロジェクト 三次元計測技術とデータの活用	竹資源を活用した環境配慮型コンクリート2次製品の提案 地方における国土交通データプラットフォームへの取り組み
17	セントラルコンサルタント(株)	3Dモデルによる取組み(橋梁施工計画、無 電柱化計画) 実証実験、社会実験によるラウンドアバウト の取組み ICT技術を活用した流域治水対策の見える化	現場に即した誰もが理解しやすい3Dモデルによる設計精度向 上と4Dモデルによる技術的検討への取組み 事例がないラウンドアバウト(市街地瓢箪型、特別豪雪地帯、 大型車考慮)構造の最適化 浸水時の状況や災害復旧計画をシミュレーションやVR、3次元 モデルによる可視化
18	ダイエツグループ／ (株)ダイエツ・ (株)センソクコンサルタント・ 計測検査(株)・ 九電ドローンサービス(株)	高解像度カメラを活用したトンネルなどの構 造物点検 障害物を回避するUAVを活用した構造物点検 AI技術や三次元モデルを活用した画像解析 Let's 3D！ 映像解析による非接触固有振動計測技術 AIによる画像からの損傷抽出支援システム バルス渦流を活用した被覆材上からの特殊検査 特殊ドローンを活用した狭小・暗所点検 産業用水中ドローンをを用いた水中点検 ロボットによる点検 (SPOT/AGV)	走行型をはじめ高解像度カメラを活用した点検支援技術 構造物の点検・診断をUAVで行う画像技術 構造物の画像を活用したAIによるひび割れ自動検出とリアル を追及した3Dモデルの作成技術 最新機器と高度な計測技術でリクエストに応え測量DXを全面 サポート！ 振動可視化システム IRIS M MIMM-AIによるコンクリート構造物の損傷抽出 RTD-Incotestを用いたスクリーニング検査 球体型や業界最小クラスの特徴ドローンをを用いて、狭小・暗所 や高所を点検 水中ドローン活用で安心・安全な点検作業を実現 四足歩行ロボットSpotを活用した検証、小型点検ロボット HANABIの開発検証を実施
19	大日本ダイヤコンサルタント(株)	のり面点検装置 地方自治体SDGs達成度評価データブック 橋梁維持管理タブレットシステム「橋守AI ヘルパー」	UAV技術とDX技術を導入した「のり面点検装置」を開発点検 作業の安全性と生産性の向上に貢献 地方自治体のSDGs達成度を総合的かつ定量的に示したデー タブック 橋梁の点検診断・原因分析・補修工法選定をAIがサポート
20	(株)地圏総合コンサルタント	CO2回収・有効利用・貯留事業 (CCUS)	石炭採掘跡等を利用した地下空洞へのCO2充填・固定に関する 実証実験
21	中央開発(株)	「次世代ボーリングマシン」を活用した地質調査 海域地盤調査オンリーワン技術「傾動自在型 試錐工法」 ダム貯水池の3Dマッピング「Nソナー」 斜面崩壊検知センサー「感太郎」 微動・振動監視システム「震介」 比抵抗モニタリング装置「レス・ツール」	標準貫入試験の自動化・地質調査のデジタル化に向けた取り組み 海洋調査技術で未来を拓く 魚群探知機を使用し、精度と迅速化・低コスト化を両立！ 設置の簡素化・多点化を可能にする軽量・省エネ・狭小・安価 な斜面崩壊感知センサー 常時微動・振動を計測して地盤の不安定化を監視 現代の魔槌で、土砂災害のピンポイント警報に挑む！
22	(株)東京建設コンサルタント	道路パトロールシステム 樋門・樋管河川施設機側操作員向け情報共有 システム 治水評価指標可視化ビューアの開発	車載カメラ画像のWEB監視とAIを用いた落下物等のリアルタ イム監視／パトロール日誌作成支援システム 樋門／樋管／水門の操作に関する指示・伝達・状況をリアルタ イムに共有 デジタルツインで流域治水対策の立案を支援するためのビュー ア開発
23	(株)ドーコン	野生生物の保全・共生技術 高精度GPSを用いた自転車交通安全のミライ 寒冷地でのZEB建築設計	希少猛禽類と共存する技術 高精度GPSによる新たな自転車利用実態把握技術 美幌町役場庁舎建設設計業務委託

	会員企業名	出展技術名	概 要
24	ID&E ホールディングス／ 日本工営(株)・ 日本工営都市空間(株)・ 日本工営エナジーソリューションズ(株)	予測雨量の閲覧システム Preview	任意の地点や流域を対象に、最大11日先までの予測雨量などを一覧表示（特許取得） 降雨予測が身近に
		防災プラットフォーム 防すけ®	浸水情報をリアルタイム発信 クラウド連携可能な防災プラットフォーム
		空飛ぶクルマの実現に向けたコンサルティングサービス	空の移動革命（空飛ぶクルマ）に挑戦する自治体・民間企業をコンサルティングサービスで強力に支援します！
		スマートシティ実現に向けた3D 都市モデルの活用	3D計測・3Dデータの活用・都市空間形成・合意形成
		点群データと連動したBIM/CIMモデルの可視化	点群データとBIM/CIMデータが連動する設計成果を作成することで、設計成果の品質向上に繋げる。
		NK-LPWAスマート農業統合環境制御システム	スマート農業（最新の無線通信技術LPWAで圃場を一元管理）
25	(株)ニュージェック	流速・流量計測システム Hydro-STIV	流速・流量計測システム Hydro-STIVの開発
		水空ドローンの開発	マルチビームソナーを搭載した水空ドローンの開発
		河川氾濫臨場体験システム	河川氾濫臨場体験システム
26	パシフィックコンサルタンツ(株)	地域インフラ群再生戦略マネジメント導入支援	インフラを“マネジメント”するための「群マネ」の推進～豊富なPPP支援実績と事業者の経験を活かして～
		人流データソリューション	人々の行動や志向を、独自のビッグデータで見える化！ 道路・公共交通・観光・防災など多分野に実績！
		画像解析技術×スマホアプリ×一元管理システム	画像解析技術で点検を効率化、異常を確実に発見し、データを一元管理することで安全安心な道路環境を実現
		防災業務支援システムからはじめる防災DX	膨大な情報から効率的にリスクを把握し、的確な判断と迅速な対応を支援する河川・防災担当者向けシステム！
		BIM/CIMを活用した次世代設計システム開発	2次元図面をつくらず数値入力で設計しBIM/CIMを作成！CO2排出量も評価！ スマートな設計を実現！
		防災・まちづくり施策の総合的な定量評価システムの開発	EBPMによる防災・まちづくり等施策評価が可能なシステム開発
27	(株)パスコ	三次元管内図によるDX推進と防災情報の融合	河川維持管理の効率化と防災・減災対策の高度化（Skyline社製）
		IoTインフラ遠隔監視サービス Infra Eye	人とセンサーが相互に補完し、インフラ維持管理業務の効率化・省人化をサポート
28	人・夢・技術グループ／ (株)長大・ 基礎地盤コンサルタンツ(株)・ (株)長大テック・ 順風路(株)・ (株)エフエクト	斜張橋ケーブル点検ロボット「VESPINAE」	斜張橋ケーブルの近接点検を安全かつ迅速に実施できる点検ロボット
		用途広がるバイオ炭	バイオ炭の農地施用によるCO2削減事業で国内初のクレジット承認！
		複合発酵技術を用いたバイオトイレAQ	微生物の働きで汚水を浄化し洗浄水へとリサイクルする装置を備える自己完結型・自己処理型トイレ
		画像分析AIを用いた簡易的な粒度分析「電脳粒度」	スマートフォンで写真を撮るだけで、砂質土の粒度組成を見える化。現場作業の効率化！
		接地抵抗を利用した「地下水位簡易観測法」	盛土の安定性評価に関する地下水位観測にもオススメ！
		「D・Box 工法」	「地盤補強+振動軽減+液状化抑制の効果を備えた工法」【D・Box 工法】
		BIM/CIM(3次元モデルデータソリューション)	インフラ分野のDX時代に対応し、3次元データモデルの整備に注力
		AIオンデマンド交通システム「コンビニクル」	ITを使った乗合システムで地域の交通課題を解決します。防災情報サービスとの連携も展開中。
29	(株)福山コンサルタント	ボーリングコア写真自動整列アプリ	多数のボーリングコア写真を自動整列面倒なコア写真編集作業を省力化
		中性子塩分計RANS-μ	コンクリート内部の塩分量を完全非破壊で把握可能【国土交通大臣賞受賞】
		AIによる下水道管路の維持管理技術 防災ソリューション	効率のかつ効果的な下水道管路維持管理のためのAI技術の活用 地理空間情報を活用した防災リスクの可視化および避難行動支援
30	(株)ふたば	CIMを活用した設計事例	CIM活用による道路詳細設計の可視化におけるリスク検討
		UAV搭載型グリーンレーザ（TDOT3 GREE）	UAV搭載型グリーンレーザによる地形測量・深淺測量
		UAV近接撮影による構造物点検	UAVとAIを活用した効率的な構造物点検
		VRを活用した地域づくりプラン	VRを活用し、住民主体のまちづくり支援や合意形成
31	(株)復建技術コンサルタント	蛍光X線分析によるコンクリート塩分濃度調査工法	非破壊検査と拡張現実技術の組み合わせによりコンクリート塩分濃度調査における大幅な省力化を実現
		ビッグデータを活用してまちづくりDXを推進	防災・交通・観光・建築等、まちづくりにビッグデータを活用し、地域課題の解決策を提案
		RPAを活用した定型業務の効率化～下水道耐震計算～	RPAにより複数の計算ソフトを連携し、入出力を自動化。定型業務自動化で効率化、品質確保に効果
		UAV・AI・ビューアアプリを活用した河川維持管理	UAV画像、点群データ、AI技術の組み合わせにより、河川巡視・点検の大幅な効率化・高度化を実現
32	三井共同建設コンサルタント(株)	都市河川における河川陸間の遠隔化に関する設備設計	現地作業員不在でも安全迅速な閉鎖を実現
		自然資本由来の地域課題解決と産業の活性化	自然資本由来の課題解決と産業の活性化に取組み、財源を担保した自然環境再生活動の価値化と経済循環を図る
		地域振興策を取り入れた地域脱炭素計画の策定	社会、環境、経済の好循環を促し、持続可能な“まちの姿”を実現
33	八千代エンジニアリング(株)	最新技術による事業DXの取組	DX等最新技術を活用した合理的な維持管理等業務の提案
		災害対応におけるDX	デジタル技術を活用して災害査定への負担軽減を図る
34	(株)吉田測量設計	3D都市モデル・非接触型流量観測システム	3D都市モデルの活用・非接触型流量観測システムの取り組み

令和 7 年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務 一覧

【局長表彰】

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
アジア航測（株）秋田営業所	八幡平山系砂防施設設計業務	（管理技術者） 黒岩 知恵	秋 田 県 市	湯 沢 河川国道	土木 (砂防・地すべり)
（株）アルファ水工コンサルタンツ	仙台塩釜港整備効果検討業務	（管理技術者） 堀江 岳人	北 海 道 市	塩釜港湾・ 空港整備	港湾（計画調査）
いであ（株）青森営業所	吉田川・高城川流域水害対策計画策定検討業務	（管理技術者） 小澤 宏二	仙 台 市 区	北上川下流 河 川	土木（河川）
（株）ウスマ地域総研	子吉川・石沢川洪水痕跡調査	（主任技術者） 石綿 智幸	秋 田 県 市	秋 田 河川国道	測量
（株）エイト日本技術開発盛岡支店	牛伏地区トンネル詳細設計業務	（管理技術者） 河原 幸弘	岩 手 県 市	三陸国道	土木（道路）
応用地質（株）東北事務所	鳥海ダム地すべり観測解析業務	（管理技術者） 近藤 征二	仙 台 市 区	鳥海ダム 工 事	土木（ダム）
北上川狹隘地区用地調査等業務 吉田測量設計・国土鑑定研究所設計共同体	北上川狹隘地区用地調査等業務	（主任担当者） 鹿糠 忠之	岩 手 県 市	北上川下流 河 川	補償
（株）協和コンサルタンツ青森営業所	津軽道花錦地区道路詳細設計業務	（管理技術者） 中村 勇二	青 森 県 市	青 河川国道	土木（道路）
（株）建設環境研究所東北支社	福島県国営追悼・祈念施設管理運営検討等業務	（管理技術者） 綿貫 建	仙 台 市 区	東 北 国営公園	土木（公園）
（株）建設技術研究所東北支社	内川流域河道評価等検討業務	（管理技術者） 向坂 興人	仙 台 市 区	宮城南都 復興	土木（河川）
	酒田北地区道路工事監督支援業務	（管理技術者） 金野 達	仙 台 市 区	酒 田 河川国道	発注者支援、行政事 務補助（土木、補償）
	新庄管内河川整備計画検討業務	（管理技術者） 根本 徹	仙 台 市 区	新庄河川	土木（河川）
	吾妻山火山砂防対策検討業務	（管理技術者） 内柴 良和	仙 台 市 区	福 島 河川国道	土木 (砂防・地すべり)
	最上川水系ダム水質対策検討業務	（管理技術者） 長由 元人	仙 台 市 区	最上川ダム 統合管理	土木（ダム）
国際航業（株）福島営業所	郡山国道防災点検設計業務	（管理技術者） 中村 芳貴	福 島 県 市	郡山国道	土木（道路）
セントラルコンサルタント（株）東北支社	仙台西道路橋梁補強検討業務	（管理技術者） 青木 佑介	仙 台 市 区	仙 台 河川国道	土木（道路）
セントラルコンサルタント（株）東北支社盛岡営業所	岩手県盛南地区道路補足設計業務	（管理技術者） 菊池 皓次	岩 手 県 市	岩 手 河川国道	土木（道路）
中央コンサルタンツ（株）盛岡事務所	四十四田ダム再生柳平地区他道路予備設計等 業務	（管理技術者） 小塚 脩平	岩 手 県 市	北上川ダム 統合管理	土木（道路）
（株）長大仙台支社	伊達崎橋修正設計業務	（管理技術者） 坂田 浩一	仙 台 市 区	東 北 道 路 MC	土木（道路）
（株）日水コン	釜房ダム水質保全対策検討業務	（管理技術者） 嶋 国吉	東 京 都 市	釜房ダム	土木（ダム）
日本工営（株）秋田事務所	成瀬ダム事業効果検討業務	（管理技術者） 舟越 善隆	秋 田 県 市	成瀬ダム 工 事	土木（ダム）
日本工営（株）仙台支店	鳴瀬川ダム本体細部詳細設計業務	（管理技術者） 桑原 真吾	仙 台 市 区	鳴瀬川総合 開発工事	土木（ダム）
パシフィックコンサルタンツ（株）東北支社	阿武隈川下流・名取川管内河川監理合理化検 討業務	（管理技術者） 武田 光弘	仙 台 市 区	仙 台 河川国道	土木（河川）
	コンクリート品質管理データベース利活用検 討業務	（管理技術者） 中澤 治郎	仙 台 市 区	東北技術	土木（道路）
パシフィックコンサルタンツ（株）盛岡事務所	岩手山火山噴火緊急減災対策検討業務	（管理技術者） 澤田 悦史	岩 手 県 市	岩 手 河川国道	土木 (砂防・地すべり)
（株）バスコ山形支店	山形管内測量図化業務	（主任技術者） 佐々木和宏	山 形 県 市	山 形 河川国道	測量
（株）双葉建設コンサルタント	最上川中流流量観測業務	（主任技術者） 八畝 清一	山 形 県 市	新庄河川	測量
（株）復建技術コンサルタント青森支店	鶴ヶ坂地区道路予備設計業務	（管理技術者） 舩岡 圭	青 森 県 市	青 森 河川国道	土木（道路）
（株）復建技術コンサルタント福島支店	磐城国道管内橋梁補修設計業務	（管理技術者） 飯土井 剛	福 島 県 市	磐城国道	土木（道路）
（株）マドック	大石田管内ほか被災箇所調査	（主任技術者） 伊藤 雅透	宮 城 県 市	新庄河川	測量
三井共同建設コンサルタント（株）青森営業所	青森港公有水面埋立承認願書作成業務	（管理技術者） 魚井 夏子	青 森 県 市	青森港湾	港湾（計画調査）
三春ダム水質総合評価調査検討業務水源環境セン ター・日水コン設計共同体	三春ダム水質総合評価調査検討業務	（管理技術者） 木村 文宣	東 京 都 市	三春ダム	土木（ダム）
八千代エンジニアリング（株）秋田事務所	森吉山ダム堤体挙動解析等業務	（管理技術者） 権神 侑貴	秋 田 県 市	能 代 河川国道	土木（ダム）
山形管内防災点検業務 日本工営・新和設計設計共同体	山形管内防災点検業務	（管理技術者） 小林基比古	山 形 県 市	山 形 河川国道	土木（道路）

【事務所長表彰】

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
株) アースデザインコンサルタン	南三陸沿岸国道管内北地区附属物点検業務	(管理技術者) 佐藤 亮	岩 手 県 大船渡市	南 三 陸 沿岸国道	土木 (道路)
株) アースデザインコンサルタン	一関遊水地太田川測量業務	(主任担当者) 津嶋 洋輔	岩 手 県 大船渡市	岩 手 県 河川国道	測量
秋田南部橋梁点検業務福山コンサルタント・ウヌマ地域 総研設計共同体	秋田南部橋梁点検業務	(管理技術者) 保坂 克也	仙 台 市 青 葉 区	東北道路 M C	土木 (道路)
(株) アサノ大成基礎エンジニアリング	鳴瀬川ダム付替国道地質調査業務	(主任技術者) 遠藤 則夫	仙 台 市 泉 区	鳴瀬川総合 開発工事	地質調査
朝日航洋 (株) 山形営業所	新庄管内航空レーザ計測	(主任技術者) 吉川健一郎	山 形 県 山 形 市	新庄河川	測量
朝日航洋 (株) 秋田営業所	玉川ダム貯水池堆砂測量	(主任技術者) 川井田敏久	秋 田 県 秋 田 市	玉川ダム	測量
阿武隈川上流地内施設設計業務 川崎地質・郡山測量設計社設計共同体	阿武隈川上流地内施設設計業務	(管理技術者) 菅野 孝美	仙 台 市 宮城野区	福 島 県 河川国道	土木 (河川)
オリエンタルコンサルタンツ・エイトック設計共同企業体	宮城管内観光渋滞対策検討業務	(管理技術者) 柿元 祐史	仙 台 市 青 葉 区	仙 台 市 河川国道	土木 (道路)
(株) ウヌマ地域総研	米代川河川区域調査測量業務	(主任技術者) 石綿 智幸	秋 田 県 石 巻 市	能 代 川 河川国道	測量
(株) エイト日本技術開発東北支社	北村地区橋梁設計業務	(管理技術者) 中垣 毅	仙 台 市 若 林 区	仙 台 市 河川国道	土木 (道路)
(株) エイト日本技術開発	鳴瀬川ダム右岸道路他詳細設計業務	(管理技術者) 内藤 政明	仙 台 市 若 林 区	鳴瀬川総合 開発工事	土木 (道路)
(株) エイト日本技術開発秋田営業所	岩見川橋詳細設計業務	(管理技術者) 中垣 毅	秋 田 県 秋 田 市	秋 田 県 河川国道	土木 (道路)
(株) オオバ福島支店	阿武隈川上流鏡石地区代替地詳細設計業務	(管理技術者) 浜尾 賢一	福 島 県 福 島 市	福 島 県 河川国道	土木 (河川)
雄物川下流治水対策推進事業監理業務 東北地域づく り・ウヌマ設計共同体	雄物川下流治水対策推進事業監理業務	(管理技術者) 土田 恒年	仙 台 市 宮城野区	秋 田 県 河川国道	土木 (河川)
(株) オリエンタルコンサルタンツ秋田事務所	湯沢河川国道管内交通事故検討業務	(管理技術者) 松戸 努	秋 田 県 秋 田 市	湯 沢 河 川国道	土木 (道路)
(株) オリエンタルコンサルタンツ	能代管内事故対策検討業務	(管理技術者) 松戸 努	秋 田 県 秋 田 市	能 代 河 川国道	土木 (道路)
(株) 片平新日本技研岩手事務所	老木地区橋梁予備設計業務	(管理技術者) 高橋 靖司	岩 手 県 盛 岡 市	三陸国道	土木 (道路)
川崎地質 (株)	四十四田ダム再生ダムサイト右岸部地質調査	(主任技術者) 楠原 信夫	岩 手 県 盛 岡 市	北上川ダム 統合管理	地質調査
北上川上流管内河川監理合理化検討業務建設環境研究 所・三協技術設計共同体	北上川上流管内河川監理合理化検討業務	(管理技術者) 阿部 幸雄	盛 岡 県 東 豊 町	岩 手 県 河川国道	土木 (河川)
北上川水系三次元点群測量パスコ・ダイワ技術サービ ス設計共同体	北上川水系三次元点群測量	(主任技術者) 鈴木 英文	仙 台 市 宮城野区	北上川下流 河 川	測量
(株) キタコン	青森地区道路補修設計業務	(管理技術者) 青 森 紀幸	青 森 県 弘 前 市	青 森 県 河川国道	土木 (道路)
(株) キタコン	岩木川ダム統合管理事務所管内流量観測及び 採水等作業	(主任技術者) 藤田 欣裕	青 森 県 弘 前 市	岩木川ダム 統合管理	測量
(株) 建設環境研究所	成瀬ダム水源地域ビジョン検討業務	(管理技術者) 綿貫 建	仙 台 市 宮城野区	成瀬ダム工 事	土木 (ダム)
(株) 建設環境研究所東北支社	阿武隈川上流管内河川監理合理化検討業務	(管理技術者) 阿部 幸雄	仙 台 市 青 葉 区	福 島 県 河川国道	土木 (河川)
(株) 建設環境研究所	釜房ダム管理施設設計業務	(管理技術者) 叶 正興	仙 台 市 青 葉 区	釜房ダム	土木 (ダム)
(株) 建設技術研究所東北支社	馬淵川整備計画等検討業務	(管理技術者) 高見 隆三	仙 台 市 青 葉 区	青 森 県 河川国道	土木 (河川)
(株) 建設技術研究所東北支社	小川原湖水環境整備計画検討業務	(管理技術者) 鶴田 泰士	仙 台 市 青 葉 区	高 瀬 川 河 川	土木 (河川)
(株) 建設技術研究所	鳴瀬川ダム管理設備概略設計業務	(管理技術者) 井上 真之	仙 台 市 青 葉 区	鳴瀬川総合 開 発 工	土木 (ダム)
(株) 建設技術研究所秋田事務所	子吉川・石沢川堤防調査業務	(管理技術者) 巽 龍太郎	秋 田 県 秋 田 市	秋 田 県 河川国道	土木 (河川)
(株) 建設技術研究所東北支社	米代川河川整備基本方針検討業務	(管理技術者) 高見 隆三	仙 台 市 青 葉 区	能 代 河 川国道	土木 (河川)
(株) 建設技術研究所山形事務所	最上川上流新田川排水機場吐出水門詳細設計 業務	(管理技術者) 巽 龍太郎	山 形 県 山 形 市	山 形 県 河川国道	土木 (河川)
(株) 建設技術研究所東北支社	最上川水系土砂・洪水氾濫対策計画検討業務	(管理技術者) 大坪 隆三	仙 台 市 青 葉 区	新庄河川	土木 (砂防)
(株) 建設技術研究所東北支社	岩木川ダム統管ダム操作支援検討業	(管理技術者) 三浦 心	仙 台 市 青 葉 区	岩木川ダム 統合管理	土木 (ダム)
国際航業 (株) 仙台支店	成瀬ダム地すべり自動観測機器設置業務	(主任技術者) 秋 田 雅彦	秋 田 県 秋 田 市	成瀬ダム工 事	地質調査
(株) 三協技術	白石川流量観測業務	(主任技術者) 丹野 祐樹	仙 台 市 青 葉 区	七ヶ宿 ダ ム	測量

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
サンコーコンサルタント（株）秋田営業所	象潟地区水文調査	（主任技術者） 荻野 りか	秋 田 県 市	秋 田 県 道	地質調査
サンコーコンサルタント（株）	二ツ井今泉道路水質モニタリング調査業務	（主任技術者） 金森 潤	秋 田 県 市	能 代 河 川 国 道	地質調査
新和設計（株）	酒田管内道路台帳作成業務	（主任技術者） 芳賀 幸裕	山 形 県 市	酒 田 河 川 国 道	測量
セントラルコンサルタント（株）東北支社山形営業所	山形地区道路詳細設計業務	（管理技術者） 菊池 皓次	山 形 県 市	山 形 河 川 国 道	土木（道路）
大日本ダイヤコンサルタント（株）盛岡事務所	三陸国道管内防災点検・法面監視業務	（管理技術者） 鈴木 光博	岩 手 県 市	三 陸 国 道	土木（道路）
大日本ダイヤコンサルタント（株）盛岡事務所	南三陸管内トンネル点検業務	（管理技術者） 水島 秀明	岩 手 県 市	南 三 陸 沿 岸 国 道	土木（道路）
大和工営（株）	鮭川流量観測業務	（主任技術者） 海藤 広	山 形 県 市	新庄河川	測量
田瀬ダム管理フォローアップ等検討業務水源環境センター・応用地質設計共	田瀬ダム管理フォローアップ等検討業務	（管理技術者） 木村 文宣	東 京 都 千 代 田 区	北上川ダム 統合管理	土木（ダム）
（株）田村測量設計事務所	鳴瀬川総合開発漁業調査業務	（主任技術者） 本間 東洋	山 形 県 市	鳴瀬川総合 開発工事	補償
（株）田村測量設計事務所	溝延地区用地補償総合技術業務	（主任技術者） 本間 東洋	山 形 県 市	山 形 河 川 国 道	補償
中央コンサルタンツ（株）	青森港油川地区岸壁（-12m）構造検討業務	（管理技術者） 錦織 庄吾	宮 城 県 市	青森港湾	土木（港湾）
中央コンサルタンツ（株）仙台支店	能代港外港地区防波堤（北）（改良）付帯施設実施設計	（管理技術者） 錦織 庄吾	宮 城 県 市	秋田港湾	土木（港湾）
中央コンサルタンツ（株）仙台支店	福島管内交通安全対策検討業務	（管理技術者） 高畠 一洋	仙 台 市 区	福 島 河 川 国 道	土木（道路）
土湯地区外用地調査等業務吉田測量設計・国土鑑定研究所設計共同体	土湯地区外用地調査等業務	（主任担当者） 田家 秀紀	岩 手 県 市	酒 田 河 川 国 道	補償
（株）東京建設コンサルタント青森事務所	馬淵大堰魚道底生魚等週上調査検討業務	（管理技術者） 渡邊 正順	仙 台 市 区	青 森 河 川 国 道	土木（河川）
（株）東京建設コンサルタント東北支社	阿武隈川下流丸森地区河川施設等検討業務	（管理技術者） 壇上 裕司	仙 台 市 区	仙 台 河 川 国 道	土木（河川）
（株）東京建設コンサルタント山形営業所	最上川下流内外水一体型水害リスクマップ検討業務	（管理技術者） 茂木 鉄平	山 形 県 市	酒 田 河 川 国 道	土木（河川）
（株）東建工営	福島管内砂防工事監督支援業務	（管理技術者） 塚野 昌彦	宮 城 県 市	福 島 河 川 国 道	土木（河川）
東邦技術（株）	鳥海ダム用地補償総合技術業務	（主任担当者） 川崎 満	秋 田 県 市	鳥海ダム 工事	補償
（株）ドーコン岩手事務所	三陸地区無電柱化検討業務	（管理技術者） 酒井 哲夫	岩 手 県 市	三 陸 国 道	土木（道路）
（株）ドーコン	鳥海ダム施工計画検討設計業務	（管理技術者） 尾山 玲	仙 台 市 区	鳥海ダム 工事	土木（ダム）
（株）ドーコン福島事務所	阿武隈川上流泉郷川橋梁設計業務	（管理技術者） 石川 雅人	福 島 県 市	福 島 河 川 国 道	土木（河川）
（株）ドーコン福島事務所	矢吹鏡石地区電線共同溝補足設計業務	（管理技術者） 酒井 哲夫	福 島 県 市	郡山国道	土木（道路）
鳴瀬川水系水文調査三協技術・古川測量設計事務所・センソックコンサルタント設計共同体	鳴瀬川水系水文調査	（主任技術者） 鈴木 晃彦	仙 台 市 区	北上川下流 河 川	測量
鳴瀬川総合開発環境調査検討業務水源環境センター・日本工営設計共同体	鳴瀬川総合開発環境調査検討業務	（管理技術者） 大杉 奉功	東 京 都 千 代 田 区	鳴瀬川総合 開発工事	土木（ダム）
日本工営（株）仙台支店	高瀬川排水機場遠隔システム詳細設計業務	（管理技術者） 石井 秀樹	仙 台 市 区	高 瀬 川	土木（河川）
日本工営（株）	八幡平山系砂防施設点検効率化検討業務	（管理技術者） 池田 一	岩 手 県 市	岩 手 河 川 国 道	土木（砂防）
日本工営（株）仙台支店	宮城管内交通安全対策外設計業務	（管理技術者） 林 伸一	仙 台 市 区	仙 台 河 川 国 道	土木（道路）
日本工営（株）福島事務所	福島管内道路構造物点検補修設計業務	（管理技術者） 小林基比古	福 島 県 市	福 島 河 川 国 道	土木（道路）
日本工営（株）福島事務所	磐城国道管内交通拠点調査検討業務	（管理技術者） 鈴木 達也	福 島 県 市	磐城国道	土木（道路）
日本工営（株）山形事務所	寒河江ダム地すべり観測業務	（管理技術者） 小林基比古	山 形 県 市	最上川ダム 統合管理	地質調査
日本工営（株）仙台支店	大規模河道掘削手法検討業務	（管理技術者） 秋田 麗子	仙 台 市 区	東北技術	土木（河川）
日本工営（株）	摺上川ダム維持管理検討業務	（管理技術者） 舟越 善隆	福 島 県 市	摺 上 川 ダ ム	土木（ダム）
（株）ニュージェック山形事務所	最上川ダム維持管理調査検討等業務	（管理技術者） 新家 拓史	山 形 県 市	最上川ダム 統合管理	土木（ダム）
バシフィックコンサルタンツ（株）秋田事務所	秋田駒ヶ岳火山噴火緊急減災対策具体化検討業務	（管理技術者） 澤田 悦史	秋 田 県 市	湯 沢 河 川 国 道	土木（砂防）
バシフィックコンサルタンツ（株）	米代川水系環境整備事業評価資料作成業務	（管理技術者） 加藤 譲	秋 田 県 市	能 代 河 川 国 道	土木（河川）

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
バシフィックコンサルタンツ（株）山形事務所	最上川下流河道計画等検討業務	(管理技術者) 樋口 敬芳	山形県市 鶴岡市	酒田河川国道	土木（河川）
バシフィックコンサルタンツ（株）福島事務所	阿武隈川上流玉川地区遊水地施設等設計業務	(管理技術者) 塚 清仁	福島県市 郡山市	福島河川国道	土木（河川）
バシフィックコンサルタンツ（株）福島事務所	郡山管内道路網調査検討業務	(管理技術者) 栃木 秀典	福島県市 郡山市	郡山国道	土木（道路）
バシフィックコンサルタンツ（株）東北支社	仙台塩釜港石巻港区雲雀野地区防波堤（南）沈下予測業務	(管理技術者) 山口 達治	宮城県市 仙台市	塩釜港湾・空港	土木（港湾）
バシフィックコンサルタンツ（株）福島事務所	小名浜港津波・高潮影響評価検討業務	(管理技術者) 大家 隆行	福島県市 郡山市	小名浜湾	土木（港湾）
バシフィックコンサルタンツ（株）東北支社	小名浜港東港地区防波堤（第二沖）Ⅲ－２区細部設計	(管理技術者) 山口 達治	宮城県市 仙台市	仙台技調	土木（港湾）
(株) バスコ福島支店	三春ダム堆砂測量	(主任技術者) 中野 尚	福島県市 福島市	三春ダム	測量
(株) 福山コンサルタント山形営業所	山形南地区路線検討業務	(管理技術者) 田村 友治	山形県市 村山市	山形河川国道	土木（道路）
(株) 福山コンサルタント山形営業所	庄内地区道路整備効果検討業務	(管理技術者) 平柳 圭	山形県市 村山市	酒田河川国道	土木（道路）
(株) 福山コンサルタント福島営業所	小名浜地区道路設計業務	(管理技術者) 田村 友治	福島県市 福島市	磐城国道	土木（道路）
(株) 双葉建設コンサルタント	山形北部交通対策設計業務	(管理技術者) 加藤 公男	山形県市 山形市	山形河川国道	土木（道路）
(株) 復建技術コンサルタント盛岡支店	三陸地区橋梁詳細設計他業務	(管理技術者) 千葉 一弘	岩手県市 盛岡市	三陸国道	土木（道路）
(株) 復建技術コンサルタント	広瀨地区道路詳細設計業務	(管理技術者) 舩岡 圭	仙台東市区 青葉区	仙台北河川国道	土木（道路）
(株) 復建技術コンサルタント	丸森地区測量調査設計業務	(管理技術者) 舩岡 圭	仙台東市区 青葉区	宮城南復興	土木（道路）
(株) 復建技術コンサルタント秋田支店	秋田管内橋梁補修設計業務	(管理技術者) 飯土井 剛	秋田県市 秋田市	秋田河川国道	土木（道路）
(株) 復建技術コンサルタント秋田支店	湯沢国道管内橋梁補修設計業務	(管理技術者) 鈴木 勝浩	秋田県市 秋田市	湯沢河川国道	土木（道路）
(株) 復建技術コンサルタント秋田支店	今泉地区橋梁予備設計業務	(管理技術者) 植野 裕也	秋田県市 秋田市	能代河川国道	土木（道路）
(株) 復建技術コンサルタント福島支店	郡山国道管内橋梁補修設計業務	(管理技術者) 水城 亨	福島県市 郡山市	郡山国道	土木（道路）
陸奥テックコンサルタント（株）	郡山管内交通量調査	(主任技術者) 渡辺 康友	福島県市 郡山市	郡山国道	測量
最上川中流管内河川監理合理化検討業務オリエンタルコンサルタンツ・双葉建設コンサルタント設計共同体	最上川中流管内河川監理合理化検討業務	(管理技術者) 吉田 勢	山形県市 山形市	新庄河川	土木（河川）
八千代エンジニアリング（株）	湯田ダム堤体上流面クラックマップ作成	(管理技術者) 権神 侑貴	岩手県市 盛岡市	北上川ダム統合管理	土木（ダム）
八千代エンジニアリング（株）北日本支店	月山ダム堤体観測監視業務	(管理技術者) 繁田 淳吾	仙台東市区 青葉区	月山ダム	土木（ダム）
(株) 吉田測量設計	遊水地群（玉川地区外）再算定等業務	(主任担当者) 及川 真宏	岩手県市 盛岡市	福島河川国道	補償
米代川三次元点群測量業務アジア航測・柴田工事調査設計共同体	米代川三次元点群測量業務	(主任技術者) 戸村健太郎	秋田県市 秋田市	能代河川国道	測量

【部長表彰】

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
(株) ニュージェック東北支店	光ファイバ・収容空間に関する情報公開・申請プラットフォーム検討業務	(管理技術者) 松井 潤一	仙台東市区 青葉区	企画部	土木（その他）
バシフィックコンサルタンツ（株）東北支社	東北管内ストック効果調査業務	(管理技術者) 加藤 良彦	仙台東市区 青葉区	道路部	土木（道路）
東邦技術（株）	令和６年度 用地補償業務関係書類作成要領更新等業務	(主任担当者) 川崎 満	秋田県市 秋田市	用地部	補償
日本工営（株）仙台支店	都市整備制度普及支援調査検討業務	(管理技術者) 上野 一弘	仙台東市区 青葉区	建設部	土木（その他）
(株) 建設技術研究所東北支社	日本海溝・千島海溝巨大地震における防災計画検討業務	(管理技術者) 野中 寛之	仙台東市区 青葉区	防災グループ	土木（その他）

株式会社都市開発設計 代表取締役 野口 隆夫



安心を支え、ミライを繋ぐ。

株式会社 都市開発設計

本社：〒963-8061 福島県郡山市富久山町福原字宝田77番地3

TEL：024-983-7181（代表）

FAX：024-983-7183

URL：http://toshi-ks.co.jp

設立：1991年（平成3年）5月15日

社員数：32名

代表者：代表取締役 野口 隆夫



企業理念

「人としての誠実さを大切にし、全従業員の心と暮らしの豊かさを追求。
そして、地域社会の安全と安心を支え続け、ミライをつなぐ。」

当社の歴史

県出身の前社長が、地域測量設計会社で橋梁設計のできる会社を作りたい、との想いで1991年に設立。

現在は、地上測量・橋梁設計以外に、道路、河川の構造物、上下水道設計および橋梁点検・補修設計、補強設計を加えて、地域社会に貢献しています。

経営方針

Mission01 社会的信頼と確かな技術の提供

誠実・迅速・高品質なサービスを心掛けて社会的な信頼を受けるため努力します。

Mission02 健全な企業経営の推進

社会的な信用のもと持続可能な経営を推進します。

Mission03 働きがいのある職場の実現

活力とゆとりと豊かさに満ちて幸福度の高い働きがいのある職場環境を実現します。

Mission04 人と自然が共生する豊かな環境づくり

人と自然が共生する豊かな社会実現に向けて環境問題に取り組みます。

Mission05 地域社会への貢献

企業市民として地域社会に積極的に貢献します。

事業内容

◇橋梁の設計

都市開発設計は、永く安全に使用できる橋を後世に残すため、今後も総合的かつ高度な技術を用いて社会の要請に応じていきます。

◇道路、河川構造物設計

道路や河川は、私たちの生活を支えるうえで地域性や豊かな風土文化とも密接に関わる重要な社会インフラです。道路や河川の新設だけでなく、既存構造物の改良（幅員の拡幅、平面線形の改良、交差点の事故削減策、渋滞対策）など様々な改良・改修設計を行っています。

◇上下水道設計

地域社会の生活基盤を支えるために、安全で持続可能なシステムの構築を目指しています。最新の技術と豊富な経験を活かし、信頼性の高い水インフラを提供します。

◇橋梁点検・補修設計

弊社では構造物を管理するための台帳整備やデジタル化CADデータとしてデータベースを構築し管理することで、効率的な維持管理を実現しています。

◇耐震補強設計

仮に大きな地震が来ても、落橋など大きな事故に



□日帰りバスツアー：リムジンバス、おさかな市場、お座敷で海鮮三昧、水族館入場待ち



□EE東北25

□橋梁現地見学

□日大工学部主催 徳定川・古池清掃

つながりにくい設計で地域のみなさまの安全を支えます。

◇地上測量

最新の技術と豊富な経験を駆使し、厳格な品質管理のもと精度の高い品質の良い成果を提供します。

トピックス

◇社内研修会

技術委員会が主催し、各部門の基礎技術の講習会やミス・エラー対策等の講習会を定期的 to 実施し、技術力の向上を図っています。また、CPD単位の登録にも積極的に取り組んでいます。

◇EE東北25

社員育成の一環として、毎年複数名が参加し、最新のICT技術やAIに触れることで、自身の興味を刺激し、技術力の向上につなげています。

◇日大工学部主催 徳定川・古池清掃2025春

今年で25年目を迎えた徳定川・古池清掃活動、年に2回実施され3年ほど前から参加しています。教員、学生、協力企業の総勢250名以上が参加して行う一大イベントです。

◇健康経営優良法人2025

企業理念である「全従業員の心と暮らしの豊かさを追求」を具現化するため、昨年、2024より取得しました。

また、働き甲斐のある職場を目指して、福島県の「働く女性応援」「仕事と生活の調和」に認証され、さらに郡山市の「空気のきれいな施設」認証も受け

ています。

福利厚生

福利厚生の一環として、コミュニケーション委員会により以下のような年間スケジュールを計画、実行しています。

10月：日帰りバスツアー

昨年は茨城の大洗で「水族館」と「おさかな市場」に行ってきました。

12月：部単位の忘年会と御用納めの会

御用納の日は午前中大掃除して、午後は芋煮と仕出し弁当で納会です。

4月：お花見会

健康経営優良法人を取得していることもあり、社員の健康増進を目的にウォーキングラリーと花見を掛け合わせて行いました。

8月：暑気払い

蒸し暑い空気を吹き飛ばすように、駅前のピアガーデンでバーベキューとともに生ビールで乾杯。

おわりに

現在まで蓄積された技術力を次世代へ継承し、持続可能な企業として発展し続けます。さらに、社員一人ひとりが充実感と幸福感を得られる職場環境の整備に努めています。

「安全で安心できる社会基盤を目指して」

株式会社マドック 代表取締役 平澤 紀元

1. はじめに

皆様はじめまして。この度令和7年4月より一般社団法人 建設コンサルタンツ協会へ入会させていただきました株式会社マドックの平澤紀元と申します。本社は宮城県大崎市に位置し、そのほか東日本圏内の主要都市に支店を設け事業を営んでおります。初めてご挨拶でお目にかかる方々から常に訊かれる質問が、社名のマドックのネーミング由来についてです。単純で恐縮ですがMap Design Consultant（マップデザインコンサルタント）を強引にもじって社名として引用させていただきました。

創業は平成12年9月（西暦2000年9月）、今年2025年9月で満25周年を迎えます。創業当初は測量業のみの登録により測量調査の下請けを主に生業としておりましたが、平成15年から各部門の建設コンサルタント登録により現在に至ります。現時点での登録部門は、河川砂防および海岸・海洋、道路、下水道、森林土木、地質の5部門により測量業に加え事業を担っております。



本社社屋

建設コンサルタンツ協会への入会のきっかけは、日々変動する社会情勢、インフラ動向や技術開発など多岐にわたり目新しい情報が発信されております。「建設コンサルタント」の名のとおり、私たちは顧客に対するコンサルティングは常に信頼される立場にな

らなければなりません。ゆえに上記を念頭に入会により様々な情報の把握、あらゆる会員方々からの情報提供等も含め、中長期的なビジョンから建設コンサルタント事業を担うに相応しい企業風土を築きたく今般の入会の運びとなりました。

つきましては冒頭本紙面上にてまことに恐縮ですが、此度の入会を推して戴きました復建技術コンサルタントの菅原会長、三協技術の高橋社長に心より御礼申し上げます。

2. 現状と課題

令和の時代を迎えた日本のインフラは老朽化が顕著に進み、昨今においては施設の損壊事故等により社会を賑わせ、今後の維持管理が喫緊の課題となっております。加えて生産人口の急激な減少や、国際情勢の影響による資材高騰など、あらゆる諸問題に加え年々激甚化する豪雨・地震災害や異常気象など、益々深刻化の一途を辿っており昭和の高度成長期とは異なった将来が危ぶまれるネガティブなイメージばかり考えがちです。

私たち建設コンサルタント従事者は震災や豪雨災害などの被災したインフラ施設への復旧対応に都度務めておりますが、年々被災が甚大であればあるほど必要とされる作業人員が不足しているのが現状で、若手技術者も乏しく60代70代の技術者が現在も多く活躍しているのが地方の建設コンサルタントの実情と思われます。



令和6年7月最上川氾濫

少子高齢化が進むなか私たち建設コンサルタントに携わる者として、災害などの迅速な対応を求められることから機動性も兼ね備えつつ、新たな施策にも積極的に提案していかなければなりません。

弊社は宮城県大崎市に位置することから魅力ある産業をアピールするうえで、都市部と地方の格差が顕著になりつつある昨今、都市部にはない地方の魅力と活性化を成し遂げるのに何が出来なのか。これらの諸問題を解決することにより、将来への展望が見出せるのではないかと考えております。

3. 今後の展望

上記で述べたように様々な課題が浮き彫りとなっておりますが、i-Constructionの実現に向けてICT活用調査の普及拡大、BIM/CIM（3次元設計）の活用推進といった生産性向上の推進、インフラDX人材育成に伴う活動や報告をHP等において公に魅力を発信し積極的な担い手育成確保に取り組んでおります。

具体的には測量調査等の現地作業においては急峻な山間部地形を把握するため、作業員が危険な斜面を上り下りしなければならませんでした。しかし現在では3Dスキャナー搭載のUAVにより精密な3次元データモデルの取得によりあらゆる計画や設計に資するデータとして活用され、高精度でかつ安全な現地測量作業が今や主流となりつつあります。

また、国の施策による働き方改革により、昔よく謂われた3Kといったタイトな稼働環境は近年みられなくなり、従来のイメージとはかけ離れた職場環境となっております。

これら会社のイベントや活動などHPで公開し、将来を見据える有望な若い方々にご覧いただき、担い手の育成に繋がれば幸いと願っております。加えてこれらCSRの一環に伴う活動や広報活動は、顧客たる発注者側も評価の一環と捉え今後益々推し進められるものと思われま



植樹活動おさき未来の森づくり（大崎市主催）

4. むすびに

この度の建設コンサルタンツ協会の入会に際し、新たな気持ちで様々な催しや企画行事に参加し、あらゆる社会動向やインフラ情報発信の場として協会活動を注視して参りたいと思います。

弊社はスタッフ総勢30名にも満たない小規模な会社ではございますが、会員方々や関係団体の皆様方からのご指導ご鞭撻を仰ぎながら、些少でも協会の発展に微力ながら貢献寄与できれば幸いと考えておりますので、何卒ご愛顧のほど宜しくお願い申し上げ、簡略ではございますがご挨拶とさせていただきます。

令和7年度支部定時総会

4月22日（火）14時から江陽グランドホテルにおいて令和7年度支部定時総会が開催されました。

会員108社中、出席69社、委任状29社、欠席10社で、出席合計が98社となり、過半数を超え総会は成立しました。



定時総会会場

冒頭、菅原支部長から挨拶をいただき議事に入りました。

議事は菅原支部長（議長）のもと、次の方々を議事録署名人として選出し議事に入りました。

（株）東北開発コンサルタント 代表取締役社長

酒井 龍一 様

（株）東北構造社 代表取締役社長 小出 誓哉 様

続いて、議案の審議が次のとおり進められました。

(1) 令和6年度事業報告について

事務局長から「事業報告1. 一般」について説明
続いて対活委員長、広報委員長、総務部会長、地域
コン委員長、技術部会長、情報部会長から「事業報
告2. 事業」についてそれぞれの部会・委員会の事業
内容説明の後、満場一致をもって承認されました。

(2) 令和7年度事業計画

菅原支部長から令和7年度の事業の基本方針と
して、以下の提案がありました。

①東北地方の社会資本整備の担い手として、東日本
大震災被災地の復興・再生を今後も支援していく
と共に、住民に豊かな生活、地域の安全・安心が
保てる社会資本整備の必要性を訴えていく活動を
継続します。

②魅力ある建設コンサルタントを目指し、受発注者
協同による健全な労働環境の改善による働き方改
革を実現し、担い手が集う環境の整備を進めます。

③近年の災害の激甚化・頻発化を踏まえて、災害協

定に基づく支援要請に対し迅速に対応できるよ
う、協定締結に向けた協議や訓練等を継続的に進
めます。

④プロポーザル方式及び総合評価落札方式におい
て、技術力を重視した方式や地域企業の参加可能
な方式などを具体的に提案することにより、入札
契約制度の改善を推進します。

⑤価格競争方式においては、地方自治体における低
価格調査制度と失格基準の改善などを提案するこ
とにより、適正な競争制度の確立を目指します。

⑥会員企業が優良な技術と知恵を持続的に提供し続
けるために、技術者育成と更なる技術力向上に取
り組みます。

⑦現場見学会やレクリエーション、技術発表会など
会員交流の機会を増やすと共に、一般の方々や学
生に向けて、建設コンサルタントの仕事や魅力に
ついて積極的に情報発信します。

⑧不当な取引制限や不当な低価格競争等を排除し、
コンプライアンスを遵守します。

続いて、対活委員長、広報委員長、総務部会長、地
域コン委員長、技術部会長、情報部会長からそれぞ
れの「事業計画」についての説明があり、満場一致
をもって承認されました。

(3) 令和7年度収支予算について

事務局長から「収支予算」について報告の後、満
場一致をもって承認されました。

(4) 令和6年度決算について

第1号議案 令和6年度決算及び令和6年度会計
監査報告について

事務局長から「決算報告」について説明があり続
いて会計監査について竹内監事から収支決算書及び
諸帳簿等を監査した結果「その内容は適正かつ正確
である」との報告が行われ、満場一致をもって本案
は承認可決されました。

(5) 役員の選任について

第2号議案 支部役員選任について

事務局長から「支部役員推薦者名簿」について説
明後、満場一致をもって本案は承認可決されました。

以上をもって令和7年度定時総会の議案全ての審議
を終了しました。

「みやぎ元気まつり 2025」出展概要

東北支部「若手の会」が実施した「みやぎ元気まつり 2025」への出展について、以下の通り概要をご紹介します。

1. イベント概要

項 目	内 容
イベント名	仙台放送 presents みやぎ元気まつり 2025
開催日時	2025年8月2日(土)～3日(日) 10:00～17:00
会 場	夢メッセみやぎ 本館 展示棟
主 催	株式会社仙台放送、みやぎ産業交流 センター（夢メッセみやぎ）
後 援	宮城県、仙台市
イベントテーマ	子どもたちを笑顔に
入場料	無料 (一部有料エリア・販売ブースあり)
2025年入場者数	24,720 人

みやぎ元気まつり2025

YouTube 仙台放送公式チャンネル 2025/06/04

YouTube



2. 出展目的

本企画は、未来の建設業界の担い手確保と、建設コンサルタントの認知度向上を目的とする。

- ・将来の担い手確保：未来を担う子どもたちに建設業界への興味・関心を喚起し、将来の担い手確保に繋げる。
- ・認知度向上：子どもたちとその保護者（ヤングファ

ミリー層）に対し、体験型ブースを通じて「建設コンサルタント」の仕事内容と社会的役割を分かりやすく伝え、認知度向上を図る。

- ・地域貢献：イベントのテーマ「子どもたちを笑顔に」に貢献するとともに、地域社会との交流を深める。

3. 企画内容

出展テーマ：建設コンサルタントのお仕事体験

子どもたちが楽しみながら建設技術に触れられる、以下の体験コンテンツを提供。

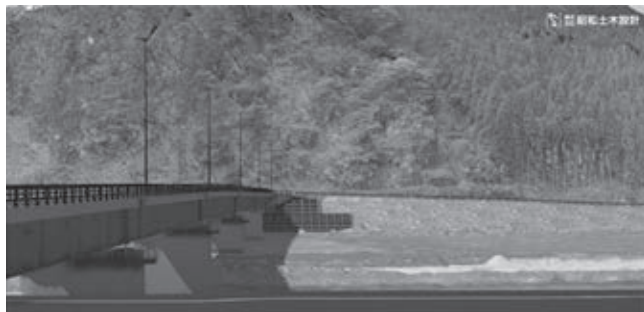
- ・フライトシミュレーター体験
ドローンや航空機での測量など、インフラ整備の初期段階の業務を疑似体験できる。



支部活動報告

・3D CAD操作体験

PCとモニターを使用し、橋や道路などを設計する3D CADの操作を体験できる。



・リーフレット等配布、ポスター掲示

建設コンサルタントPRリーフレットや土木構造物のペーパークラフト、子ども向けの塗り絵等を配布し、業界への理解を促進する。

4. 会場の様子

(2日間で約400人の方が訪れてくれました！)



〔支部だより〕

4月3日（木）

令和6年度会計監査

場 所／支部会議室

4月8日（火）

第1回役員会

議 題／(1) 令和7年度支部定時総会について

(2) 各分会・委員会からの報告

(3) そ の 他

4月22日（火）

令和7年度支部定時総会

場 所／江陽グランドホテル

議 題／(1) 令和6年度事業報告について

(2) 令和7年度事業計画について

(3) 令和7年度収支予算書について

(4) 令和6年度決算報告について

(5) 役員を選任について

そ の 他

会員 108社中 出席 75社 委任状 29社 欠席 4社

4月22日（火）

定時総会講演会

場 所／江陽グランドホテル

演 題／「社会資本整備に関する最近の話題」

東北地方整備局 企画部長 宮本 健也 氏

受講者 約150名

4月22日（火）

定時総会懇談会

場 所／江陽グランドホテル

主 催 総務部会

参加者 150名

4月22日（火）

宮城県建設センター「土木構造物設計研修」

へ講師派遣

講 師／石井 一人（パシフィックC株）

4月25日（金）

第1回若手の会（集合及びWeb会議）

5月12日（月）

第1回広報委員会

議 題／(1) 令和7年度講演会について

(2) そ の 他

5月15日（木）

第1回地域コン委員会

議 題／(1) 本部地域コン委員会の報告

(2) 東北6県入札契約制度について

(3) そ の 他

5月16日（金）

第1回情報部会（Web会議）

議 題／(1) 令和7年度事業計画について

(2) 講習会の開催方式について

(3) そ の 他

5月20日（火）

第2回役員会

議 題／(1) 意見交換会について

(2) 各分会・委員会からの報告

(3) そ の 他

5月20日（火）

宮城県建設センター「土質設計研修」へ講師派遣

講 師／沖野 清隆（応用地質株）

山田 満秀（大日本ダイヤC株）

5月23日（金）

第2回若手の会（集合及びWeb会議）

5月28日（水）

第1回技術部会

議 題／(1) 令和6年度活動報告について

(2) 令和7年度事業計画・予算について

(3) そ の 他

5月28日(水)

技術部会総会

場 所／TKP ガーデンシティPREMIUM 仙台西口

議 題／(1) 令和6年度各専門委員会活動報告
(2) 令和7年度技術部会事業計画(案)及び
予算
(3) 大学等へのプレゼン計画、その他

6月4日(水)～5日(木)

EE東北'25(参集及びWeb開催)

場 所／夢メッセみやぎ

来場者 2日間延べ人数 18,300名

出展者 384/技術数 952

(建コン支部会員 出展者 56/技術数 127)

学生等向け出展企業等を紹介する「学生&企業交流ひろば」に支部のブースを設置

6月16日(月)

技術部会(インフラメンテナンス専門委員会)

6月17日(火)

第1回対外活動委員会

議 題／(1) 令和7年度対活委員会体制について
(2) 意見交換会の担当者について
(3) そ の 他

6月21日(土)

交流会(バーベキュー大会)

場 所／閑上かわまちてらす

主 催 総務部会 参加者 50名

6月24日(火)

第3回役員会

議 題／(1) 役員の選任について
(2) 各県との意見交換会について
(3) そ の 他

6月25日(水)

ICT専門委員会「技術講習会」

場 所／PARM-CITY 131 貸会議室 Room4A

主 催 技術部会ICT専門委員会 受講者 57名

7月3日(木)～4日(金)

青森県建設技術センター「土質研修会」へ講師派遣

講 師／沖野 清隆(応用地質株)

山田 満秀(大日本ダイヤC株)

早乙女 勉(日本工営株)

三瓶 和法(株エイト日本技術開発)

7月9日(水)～11日(金)

岩手県土木技術専門研修「一般構造物等」1期

へ講師派遣

講 師／高橋 昭裕(株オリエンタルC)

早乙女 勉(日本工営株)

高津 茂樹(株建設技術研究所)

向江 正夫(株東京建設C)

7月15日(火)

宮城県防災訓練(電話訓練)

10:00～12:00

7月16日(水)

第2回情報部会

議 題／(1) CIM講習会、GIS講習会について
(2) 各WGからの報告について
(3) そ の 他

7月17日(木)

第4回役員会

議 題／(1) 東北ブロック意見交換会について
(2) 各県意見交換会について
(3) そ の 他

7月17日(木)

ふくしま市町村支援機構「舗装の調査・評価について」へ講師派遣

講 師／安部 祐一(新和設計株)

7月23日(水)～25日(金)

岩手県土木技術専門研修「一般構造物等」2期

へ講師派遣

講 師／高橋 昭裕(株オリエンタルC)

早乙女 勉(日本工営株)

高津 茂樹(株建設技術研究所)

向江 正夫(株東京建設C)

8月6日(水)

構造専門委員会「現場見学会」

見学場所／(仮) 支倉3号橋上部工工事

国道286号南赤石1号橋(PCラーメン橋)

主催／技術部会構造専門委員会 参加者30名

8月22日(金)～27日(水)

ふくしま市町村支援機構「土木部専門研修」

へ講師派遣

講師／石井 一人(パシフィックC株)

高津 茂樹(株建設技術研究所)

松山 一昭(大日本ダイヤC株)

8月22日(金)

青森県建設技術センター「土質研修会」へ講師派遣

講師／岡田 範彦(株ニュージェック)

8月25日(月)

第2回広報委員会

議題／(1) 令和7年度講演会について

(2) JCCA TOHOKUの編集について

(3) その他

8月27日(水)

経営者委員会(社長会)

場所／パレスへいあん

議題／(1) 本部地域コン委員会活動報告

(2) 意見交換会について

(3) その他

講話

①「最近の国土交通行政をめぐる話題」

講師：東北地方整備局企画部

技術調整管理官 佐藤 彰氏

8月28日(木)

東北ブロック(本部・整備局)意見交換会

東北地方整備局 西村局長 他17名

本部 中大本長 他13名

支部 田澤支部長 他13名

議題

1. 担い手確保・育成のための環境整備

2. 技術力による選定

3. 品質の確保・向上

4. 災害対応に向けた環境改善

5. DX推進の環境整備

8月28日(木)

仙台市「令和7年度第1回道路技術研修会」

へ講師派遣

講師／江種 基(パシフィックC株)

8月29日(金)

岩手県土木技術振興協会「橋梁技術研修

(橋梁メンテナンス)」へ講師派遣

講師／石橋 努(株復建技術C)

8月29日(金)

第5回若手の会(集合及びWeb会議)

9月1日(月)

災害時対応演習[11:00～14:30]

11:00北陸支部管内においてマグニチュード8.0の大規模地震が発生し、災害対策東北支部を設置したとの想定で災害対策支部員を招集、本部・各支部とWeb会議にて演習を行った。

会員の被災状況を把握するため、予め決めていた連絡会員会社18社へ携帯電話により被害状況照会、会員より被害状況をFAXで受信。

また、被災現地への派遣のため、予め決めていた災害現地調査派遣会員6社と協議・派遣等の訓練を実施した。

9月2日(火)～3日(水)

CIMハンズオン講習会

場所／PARM-CITY131 貸会議室 5A

共催 本部 情報部会ICT委員会CIM技術専門委員会

支部 情報部会 受講者 両日 各20名

9月3日(水)

第2回対外活動委員会

議題／(1) 各県との意見交換会について

(2) その他

9月5日(金)

GIS講習会(ArcGIS/初級A編)[Web開催]

主催 本部 情報部会ICT委員会ICT普及専門委員会

支部 情報部会 受講者 7名

9月5日(金)

山形県土木整備部「河川整備研修」へ講師派遣

講師／加藤 譲(パシフィックC株)

五十嵐 徹(日本工営株)

9月9日(火)～12日(金)

岩手県土木技術専門研修「地質、道路・河川計画」

へ講師派遣

講師／紺野 健一(株)アースデザインC)
田中 倫久(アジア航測株)
今野 篤(株)東京建設C)
恵美 進一(八千代E株)

9月9日(火)～19日(金)

宮城県土木部職員研修「河川設計研修〈LIVE併用型〉」
「橋梁設計研修〈LIVE併用型〉」へ講師派遣

講師／巽 龍太郎(株)建設技術研究所)
柴崎 進(株)復建技術C)
石井 一人(パシフィックC株)

9月12日(金)

第3回対外活動委員会

議題／(1) 各県との意見交換会について
(2) その他

9月16日(火)

第3回情報部会(集合及びWeb会議)

議題／(1) 各WGからの報告について
(2) 各WGからの報告について
(3) その他

9月17日(水)

GIS講習会(ArcGIS／初級A編)[Web開催]

主催 本部 情報部会ICT委員会ICT普及専門委員会
支部 情報部会 受講者 5名

9月17日(水)～18日(木)

福島県農林土木技術研修(中堅職員研修2)

へ講師派遣

講師／石井 一人(パシフィックC株)

9月18日(木)

令和7年度コンプライアンス研修会(Web配信)

場所／事務局会議室

講師／公正取引委員会事務総局 東北事務所
総務課長 下山 博靖 氏
(一社)日本メディアリテラシー協会
理事 ブラウン美由紀 氏

主催 (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部、
(一社)宮城県測量設計業協会、
(一社)日本補償コンサルタント協会東北支部、
(公社)全国上下水道コンサルタント協会東北支部、
(一社)東北測量設計協会、
(一社)東北地質調査業協会 6団体の共催
出席者 約700名(建コン会員 310名)

9月19日(金)

第6回若手の会(集合及びWeb会議)

9月25日(木)

第5回役員会

議題／(1) 各県との意見交換会について
(2) 役員の選任について
(3) その他

9月25日(木)

GIS講習会(ArcGIS／初級B編)

主催 本部 情報部会ICT委員会ICT普及専門委員会
支部 情報部会 受講者 10名

9月25日(木)

山形県「建設マネジメント研修Ⅱ(応用編)」

へ講師派遣

講師／佐藤 拓弥(セントラルC株)
高橋 晃(セントラルC株)

9月30日(火)

岩手県土木技術専門研修「地質調査」へ講師派遣

講師／薄井 隆義(パシフィックC株)
沖島 剛(株)復建技術C)

一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 東北支部JCCA
TOHOKU
明日への風、東北から

令和7年度 講演会

令和7年11月12日(水) 13:20~17:00

(12:40 受付開始)

テーマ

「災害に向き合う」

【講演者の皆様】

サッパシー アナワット 氏
東北大学 災害科学国際研究所
准教授黒田 典子 氏
オンライン防災 代表松尾 一郎 氏
東京大学 大学院
客員教授

※(プログラム、演題はウラ面をご覧ください。)

会場 仙台市戦災復興記念館 記念ホール**参加対象者** どなたでもご参加いただけます。
(下記により事前申し込みをお願いします。)**参加費** 無料 **定員** 200名(先着順)**申込方法・申込先** PC・スマホから「建設コンサルタンツ協会東北支部」HPの「講習会の案内」にアクセスし、同講演会の「参加予約フォーム」に入力しお申し込みください。
なお、申し込みが完了しますと、登録したメールアドレスに完了メールが届きますので、受信できるように設定をお願いいたします。(フリーメールアドレスでの登録はできませんのでご了承願います。)

(サイトアドレス)

<https://jcca-tohoku.jp>

建コン 東北

検索

入場
無料**申込期日** 令和7年9月29日(月)11:00~令和7年10月29日(水)12:00

(定員になり次第締め切らせていただきます。)

その他 本講演会は、一般社団法人建設コンサルタンツ協会CPDプログラムとして認定予定です。会場
案内仙台市
戦災復興記念館〒980-0804
仙台市青葉区大町2-12-1広瀬通駅(西4)から徒歩約10分
大町西公園駅(東1)から徒歩約6分主催/一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部
後援/国土交通省東北地方整備局河北新報社、日刊建設工業新聞社東北支社、
日刊建設通信新聞社東北支社、建設新聞社、
日本建設新聞社仙台総局協賛/公益社団法人 土木学会東北支部
公益社団法人 日本技術士会東北本部

(順不同)

お問合せ

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部

Tel.022-263-6820 E-mail:thinfo@th.jcca.or.jp

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部 会員名簿

会員 10月現在 107社

会 社 名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株)アースデザインコンサルタンツ	本社	〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8	0192-27-0835
(株)アールバン設計	本社	〒963-0201 福島県郡山市大槻町字御前東46-26	024-961-7500
(株)アサノ大基基礎エンジニアリング	東北支社	〒981-3133 仙台市泉区泉中央2-25-6	022-343-8166
アジア航測(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28	022-216-3553
(株)東コンサルタント	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101	0246-23-8424
(株)アルファ水工コンサルタンツ	仙台事務所	〒985-0874 多賀城市八幡3-10-27	022-207-5300
いであ(株)	東北支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉3-4-43	022-263-6744
(株)ウエスコ	東北事務所	〒981-1106 仙台市太白区柳生1-11-8	022-797-5271
(株)ウヌマ地域総研	本社	〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19	018-863-5809
エアロトヨタ(株)	東北営業部	〒981-3131 仙台市泉区七北田字古内1-1	022-771-2382
エイコウコンサルタンツ(株)	本社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字下亀子谷地11-2	0178-21-1511
エイト技術(株)	本社	〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10	0178-47-2121
(株)エイト日本技術開発	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-712-3555
(株)エース	仙台営業所	〒980-0003 仙台市青葉区小田原5-1-53-208	022-797-9718
応用地質(株)	東北事務所	〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2	022-237-0471
(株)オオバ	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-2-13	022-261-8861
(株)オリエンタルコンサルタンツ	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1	022-215-5522
開発虎ノ門コンサルタント(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-292-5220
(株)片平新日本技研	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-722-3130
川崎地質(株)	北日本支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16	022-792-6330
基礎地盤コンサルタンツ(株)	東北支社	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23	022-291-4191
キタイ設計(株)	東北支社	〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-6-53	022-343-5416
(株)キタコン	本社	〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1	0172-34-1758
(株)キタツク	仙台事務所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37	022-265-1051
(株)橋梁コンサルタント	東北事務所	〒963-8024 福島県郡山市朝日1-28-14	024-953-3667
(株)協和コンサルタンツ	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14	022-266-6073
協和設計(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1	022-742-3711
(株)近代設計	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-12-12	022-207-2480
(株)ケー・シー・エス	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2	022-224-1591
(株)建設環境研究所	東北支社	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11	022-706-4973
(株)建設技術研究所	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-261-6861
(株)構研エンジニアリング	東北営業所	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-203	022-344-6231
(株)郡山測量設計社	本社	〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3	024-952-5200
(株)国際開発コンサルタンツ	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-5-25	022-225-6201
国際航業(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45	022-299-2801
国土防災技術(株)	東北支社	〒984-0075 仙台市若林区清水小路6-1	022-216-2586
(株)コサカ技研	本社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2	0178-27-3444
(株)コンテック東日本	本社	〒030-0122 青森県青森市大字野尻字今田91-3	017-738-9346
(株)寒河江測量設計事務所	本社	〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153-1	0237-86-5520
(株)櫻エンジニアリング	本社	〒963-8034 福島県郡山市島1-22-30	024-953-6830
(株)サトー技建	本社	〒984-0816 仙台市若林区河原町1-6-1	022-262-3535
(株)三協技術	本社	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-14	022-224-5503
三協コンサルタント(株)	本社	〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1	023-655-5000
サンコーコンサルタント(株)	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-273-4448
(株)三洋コンサルタント	岩手営業所	〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ5-16-34	019-645-6281
(株)三和技術コンサルタント	本社	〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21	0237-55-3535
柴田工事調査(株)	本社	〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1	0183-73-7171
(株)庄内測量設計舎	本社	〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9	0234-43-2459
昭和(株)	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1	022-742-5301
(株)昭和土木設計	本社	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4-1-23	019-638-6834
(株)新星コンサルタント	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-11	050-5814-4959
新和設計(株)	本社	〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880	0238-22-1170
(株)新和調査設計	本社	〒963-8016 福島県郡山市豊田町4-12	024-934-5311
JR東日本コンサルタンツ(株)	東北支店	〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2	022-211-0872

会 社 名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
セントラルコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21	022-264-1923
(株) 創 研 コ ン サ ル タ ン ツ	本 社	〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22	018-863-7121
(株) 綜 合 技 術 コ ン サ ル タ ン ツ	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-6-15	022-268-4191
創 和 技 術 (株)	本 社	〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7	018-863-4545
(株) 田 村 測 量 設 計 事 務 所	本 社	〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3	023-642-6644
第 一 復 建 (株)	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3701
(株) ダ イ エ ツ	本 社	〒965-0831 福島県会津若松市表町2-53	0242-26-1253
大日本ダイヤコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35	022-261-0404
大 和 工 営 (株)	本 社	〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43	0233-22-2422
(株) 地 圏 綜 合 コ ン サ ル タ ン ツ	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-261-6466
中 央 開 発 (株)	東北支店	〒984-0016 仙台市若林区蒲町東20-6	022-766-9121
(株) 中央技術コンサルタンツ	東北支店	〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-13-4	022-375-6787
中央コンサルタンツ(株)	仙台支店	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-27	022-722-2541
中央復建コンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7	022-267-1459
中電技術コンサルタンツ(株)	東北事務所	〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-15	022-397-8173
(株) 長 大	仙台支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26	022-781-8628
(株) 千 代 田 コ ン サ ル タ ン ツ	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2	022-214-6261
(株) テ イ コ ク	東北支店	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-202	022-343-0956
(株) 東京建設コンサルタンツ	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-222-8887
東京コンサルタンツ(株)	東北支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-20	022-265-3891
(株) 東 建 工 営	本 社	〒981-1227 名取市杜せきのした1-2-7	022-383-9811
(株) 東 光 コ ン サ ル タ ン ツ	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-9-8	022-264-1578
(株) ト ー ニ チ コ ン サ ル タ ン ツ	東北事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-262-0243
(株) ド ー コ ン	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-225-2860
東 邦 技 術 (株)	本 社	〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町2-13	0187-62-3511
(株) 東北開発コンサルタンツ	本 社	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33	022-225-5661
(株) 東 北 構 造 社	本 社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-227-1877
(株) 都 市 開 発 設 計	本 社	〒963-8061 福島県郡山市富久山町福原字宝田77-3	024-983-7181
(株) 土 木 技 研	本 社	〒020-0839 岩手県盛岡市津志田南2-16-20	019-638-8131
日 栄 地 質 測 量 設 計 (株)	本 社	〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2	0246-21-3111
(株) 日 水 コ ン	東北支所	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-222-1101
(株) 日 本 イ ン シ ー ク	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-724-7530
日 本 工 営 (株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-8-20	022-227-3525
日 本 工 営 都 市 空 間 (株)	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-13-22	022-716-6646
(株) 日 本 構 造 橋 梁 研 究 所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1	022-713-6657
日 本 振 興 (株)	東北支店	〒980-8485 仙台市青葉区中央1-2-3	022-797-0391
(株) ニ ュ ー ジ ェ ッ ク	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-301-7611
パシフィックコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1	022-302-3940
(株) パ ス コ	東北事業部	〒983-0864 仙台市宮城野区名掛丁205-1	022-299-9511
(株) 東日本建設コンサルタンツ	本 社	〒974-8261 福島県いわき市植田町林内26-5	0246-63-6063
(株) 福 田 水 文 セ ン タ ー	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町3-6-17	022-281-8525
(株) 福 山 コ ン サ ル タ ン ツ	東北支社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17	022-262-0118
富 士 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	仙台支店	〒982-0013 仙台市太白区太子堂10-20	022-395-6216
(株) ふ た ば	本 社	〒979-1113 福島県双葉郡富岡町曲田55	0240-22-0261
(株) 双葉建設コンサルタンツ	本 社	〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399-11	0233-22-0891
(株) 復 建 エ ン ジ ニ ヤ リ ン グ	東北支社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町11-11	022-267-2765
(株) 復 建 技 術 コ ン サ ル タ ン ツ	本 社	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25	022-262-1234
復 建 調 査 設 計 (株)	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1	022-723-5830
(株) マ ド ッ ク	本 社	〒989-6104 大崎市古川江合錦町2-1-3	0229-23-6029
三井共同建設コンサルタンツ(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26	022-296-1061
陸奥テックコンサルタンツ(株)	本 社	〒963-8011 福島県郡山市若葉町17-18	024-922-2229
八千代エンジニアリング(株)	北日本支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23	022-261-8344
(株) 吉 田 測 量 設 計	本 社	〒020-0861 岩手県盛岡市仙北1-3-13	019-635-1740

編集後記

この支部だよりの編集作業を進めている中、トカラ列島の悪石島や小宝島付近で群発地震が頻発しているという報道が目にとまりました。連日の揺れにより、島民の皆さんの不安は募るばかりであり、火山活動との関連も指摘される中、自然の力の前では人間の営みがいかに脆弱であるかを改めて思い知らされます。さらに、カムチャツカ半島沖で発生した地震により、日本の一部地域に津波警報が発令され、津波浸水想定区域の住民が避難する事態となりました。突然の警報と避難は、災害がいかに予測困難であるかを示すものであり、防災に対する意識を高めることの重要性を改めて深く感じました。

私たち東北に暮らす者にとって、地震は決して他人事ではありません。東日本大震災は、私たちの生活を一変させました。津波によって失われた街並み、避難所での不安な日々、そして復興への長い道のり。あの日の記憶は今も鮮明に心に刻まれており、あの経験が私たちの防災意識を根底から変えました。

今回の悪石島の地震やカムチャツカ地震による津波警報を目の当たりにし、「備えること」の大切さを改めて考える時期に来ているのかもしれませんが、災害はいつ、どこで起きるか分かりません。だからこそ、日頃からの情報収集、避難経路の確認、地域との連携が不可欠です。建設コンサルタントとして、私たちはインフラ整備だけでなく、地域の安全と安心を支える役割を担っています。

現在、地震への関心が高まる中、広報委員会では来たる11月12日（水）に「災害に向き合う」をテーマとした講演会を開催いたします。皆様にご参加いただき、災害について改めて考えるきっかけとなるような、有意義な時間を共有できればと考えております。多くの皆様のご来場を心よりお待ちしております。

最後に、本誌へご寄稿いただきました皆様に心より御礼申し上げます。ご多忙の折にもかかわらず、快くご協力賜りましたことに深く感謝申し上げます。

令和7年10月 畑山 満

JCCA TOHOKU Vol.71

発行 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部
〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-11
アーク仙台ビル
TEL 022-263-6820

編集 広報委員長 菊 池 透
副委員長 上 野 圭 祐 副委員長 松 本 裕 史
広報委員 大 友 正 樹 広報委員 相 澤 達 也
〃 大 場 秀 行 〃 樋 口 章 大
〃 長 谷 川 悟 〃 関 口 克 大
〃 安 井 栄 晃 〃 池 田 達 人
〃 海 老 名 俊 之 〃 畑 山 満
〃 佐 藤 正 隆

事務局 淀 川 政 晴・小 川 みゆき

印刷 ハリウ コミュニケーションズ株式会社

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12

TEL 022-288-5011



.....明日への風、東北から.....

【建コン東北支部 サイトアドレス】

<https://jcca-tohoku.jp>

建コン 東北

検索



ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。